

# 2019年度事業報告

(2020年5月22日 理事会資料)

社会福祉法人 宮城厚生福社会

はじめに

世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受け、全国で大幅な外出自粛を行い、経済的な影響を受けています。自粛を呼びかけ8割接触を避けることを強調する一方で、その保障については十分な補償がされる見通しは見えていません。憲法が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」に基づき、一人ひとりの生活を守りながら乗り越えていく対策が進むことを願います。雇用調整助成金など休業補償の制度もありますが、収入が下がっただけでは要件に該当せず、休業を行い労働者を休業させその賃金を労働者に支払った事業者はその一部を補填するのみです。継続が求められる福祉事業は対象ではないなど、あらゆる苦境にある事業所への補填する様々な施策が求められます。

福祉事業は生活の継続に必要な事業であるとして、継続が求められています。福祉施設での集団感染がニュースで取り上げられています。法人内事業所では換気や消毒・面会制限など、あらゆる対策を進めていますが、3密のうちの「密接」については避けがたい事業です。関係する各団体とともに、国や自治体には、必要な物品や体制の拡充について要望を出しています。憲法の理念に基づき、福祉を必要とされる方々の権利を守る担い手として、福祉事業を展開しています。

現在の社会情勢・社会福祉制度の実態は、憲法が掲げる理念から遠くかけ離れた状態です。

介護・保育・障がい・児童と私たちが実施する事業は、社会保障制度の変化のもと年々厳しさを増しています。昨年度も様々な団体の皆さんと共同で運動を進めてきました。保育署名・介護署名の他、介護フォーラム、福祉ウェブの運動を進めてきました。

地域で困っている方々への役割を果たすと共に、法人に課せられる具体的な経営的課題も乗り越えていかなければなりません。とりわけ情勢を受け、人材確保の厳しさは少子化の影響もあり年々増しています。

2019年度は、介護事業ではヘルパーステーション宮城野の里の閉鎖、くりこまの里のデイサービスでも認知症対応型の休止をしています。特養での夜勤体制の確保が困難であり、人的体制の課題に直面しています。2020年度に向けては十符・風の音のデイサービスセンター木の実を再開させる準備を進めてきました。人事部の体制を改め、採用活動の強化を進めています。

保育事業でも人員体制の確立に向けて、初任給の引き上げを行い16名の保育士を確保しています。待機児童の状況は地域によっては緩和されていて、地域差が出てきています。待機児童が少ない地域での選ばれる保育所としての取り組みがこの間の課題となっています。保護者に分かりやすく魅力を発信する取り組みやサービスの充実について議論が引き続き必要です。

障がい事業では、この間の経営対策が進み、事業所職員の奮闘により就労支援事業でも一

定の成果が見えつつあります。引き続き職場職員の力を結集しながら、安定した経営が出来る枠組みづくりを進めます。

2019年度寄せられた苦情は24件と、前年度の約半数となっています。利用者間・保護者間のトラブルや、騒音による苦情等、これまでと異なる形の苦情が増加してきています。申し出頂いた苦情は全て今後に活かすために法人全体で共有化し、今後の丁寧な援助に当たっていくための教訓とします。

今後も地域で困難を抱える方に寄り添いながら、事業活動を進めてまいります。

### 2019年度の重点課題 振り返り

1. **理事会・管理部が人材確保と経営改善、法人理念に基づく人事育成の先頭に立ちます。理事会・管理部が現場と双方向で必要な政策立案・具体化し取組みを実践します。**

人材確保と育成は経営と利用者される皆さんへの処遇に直結する課題となっています。職員確保と教育の充実に向けた議論と体制を取る議論を進めてきました。

2019年度からは人事部長の下に職員確保の担当職員を配置し、県内外の学校訪問等の取組みを強化し進めてきました。来期に向けてはさらに強化体制を進めます。給与改定、キャリアアップ制度などの議論と創設などを早急に進めます。

2. **法人全体、各部門、事業別に借入金償還・設備投資の必要資金を明らかにし、法人全体として必要資金の確保を追求し、安定した経営基盤を構築する取組を実施します。度重なる法改正により、労務管理やコンプライアンスが重視されています。管理部・担当者による向上を行います。**

各部門・事業別での必要資金の理解を引き続き進め、経営課題を直視した事業所運営を進め、事業継続を図っていかねばならない状況です。

法人管理者会議や事務担当者会議の中で法的に必要な課題を確認して進めてきています。

3. **管理者が中心となり、理念に基づく実践を追求しながら、育ち合う職場づくりと階層・職種に応じた研修を進め、「この法人で働きたい」という職場を目指します。**

職員集団・職場づくりの上で中間管理者・中堅職員の果たす役割は大きいものがあります。管理者との連携のもと職場管理が進められるよう、取組みを進めます。

4. **社会保障運動を重視し、人々が幸せに暮らせる社会の実現に向けて、広範な団体・個人と共同し運動を進めます。**

保育署名・介護署名の他、介護フォーラム、福祉ウェブの運動を進めてきました。取り組みを今後も広げていきます。

5. 理事会で決定された事項の執行機能として、常務会、執行管理者会議(施設長会議)、事業単位での会議、各部・委員会を本部機能として位置づけます。本部事務局は、社会保障部、教育研修部、人事部、事務部を統括し、各事業での経営的課題等について掌握し具体化を進めます。

本部事務局では事務部長・課長を中心として全体的な課題に対応しました。各委員会では必要に応じて会議を持ち、それぞれの具体的な課題を討議し実行しました。

6. 法人の理念と歴史を振り返り、世代継承を図ります。理念は全職員参加の下、学習・意見交換を行いながら、現在の組織と社会情勢にふさわしく見直しを行います。

法人の理念・歴史を振り返る場として、法人学術運動交流集会を開催しています。民医連綱領と歴史をテーマに学んだほか、阿部和子先生の没後30周年記念集会にて法人の保育所の歴史とその起源を学びました。歴史に学び私たちの理念を深める場となりました。

## 高齢者福祉施設 宮城野の里

現在世界的なコロナウイルス感染症の影響により、外出制限など生活が一変しています。当事業所でもボランティアの方の受け入れを休止し、地域の方々の支えによって利用者の皆さんの生活が潤い、職員が支えられていることを感じているところです。今年夏の宮城野の里祭りの中止を含め、様々なものを一時的に制限せざるを得ない状況です。ご利用者・入居者・ご家族・地域の皆様にはご不便をおかけしますが、引き続きのご協力をお願い申し上げます。引き続き施設内のコロナウイルス感染症対策に力を注ぎ、感染のリスクを最小限に抑えながら生活を守る福祉事業の継続をしていきます。そして、現在の苦難を乗り越え、人々が安心して外出ができ、日常を取り戻せることを切に願います。

2019年度は10月に台風の影響がありました。被害に遭われた皆様に、心からお見舞い申し上げます。当事業所も職員数人が備えに残り、浸水時を想定し施設利用者の対応に当たりました。東日本大震災から10年が経ち、当時を知る職員の今後の災害対応マニュアル作りの見直しに活かしていく討議をしています。また、2020年初めにはショートステイにてインフルエンザの施設内感染がありました。改めて感染症の発生時の対応について確認しています。

デイサービスの稼働の改善に向けた各部門での連携協力など、各事業所の運営では各職責者を中心として対応に当たり、様々なトラブル対応もありましたが、この数年の積み重ねが着実に表れ始めたことを実感できる年度でした。

### 【 福田町デイサービスセンターⅠ 】

#### 1. 利用者動向

昨年度は25名定員で運営していましたが、4月からは30名定員へ変更し、新規利用者獲得に向け、チーム一丸となって取り組みました。月初めの居宅事業所回り（実績届け）では、毎月訪問し、顔の見える関係づくりを築きました。その中で、訪問時に相談を頂き、体験利用に繋ぎ、利用開始される利用者も多く獲得することができました。また、居宅事業所のケアマネジャーがモニタリング時に訪問するタイミングでデイサービスの空き状況を知っていただくよう、毎月、中旬に各居宅事業所へFAX送信を継続して実施しました。5月より個別機能訓練加算Ⅱを算定した事で、機能訓練を希望する新規利用者を獲得することができました。

## 1) 利用者実績

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数		26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	25	26	310
定員		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
実人数(総合事業・支援)		20	19	22	22	23	21	22	24	26	25	27	25	276
実人数(介護)		57	59	59	61	60	63	66	62	64	64	61	62	738
実人数(総合事業・支援)	事業対象	4	5	4	5	4	0	0	0	0	0	0	0	22
	支援1	26	33	29	38	30	30	43	30	32	36	42	39	408
	支援2	77	91	101	108	113	100	106	124	120	113	111	118	1282
実人数(介護)		517	519	482	535	534	529	585	539	548	554	561	592	6495
利用率		80	80	82	81.9	84.6	88	90.6	89	93.3	97.6	95.4	96	88.2 (平均)
平均介護(予防)		1.6	1.6	1.7	1.6	1.7	1.7	1.6	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6 (平均)
平均介護(介護)		1.8	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.8	1.8	1.8 (平均)

## 2) 利用者動向

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2018	2019
開始者数	4	3	5	3	4	4	4	3	4	2	6	1	40	43
終了者数	3	5	1	1	3	3	3	2	4	3	1	4	30	33

## 3) 利用開始理由

開始理由	開始合計	交流	家族の介護負担軽減	見学体験で気に入った	入浴目的	支援→介護へ移行	再開利用
人数	43	13	3	13	9	5	0

## 4) 利用終了理由

終了理由	終了合計	死去	入所	デイⅡへ移行	本人が希望しない	介護⇒支援へ移行	支援⇒介護へ移行	入院	他デイへ	その他
人数	33	4	11	1	4	4	3	2	1	3

## 2. 具体的な取り組みについて

### 目標

①利用者様お一人おひとりが「ここに来て良かった」と思えるデイサービスを目指します。

・毎月の行事カレンダーを作成し、定期的なボランティアさんの催し物の企画、月ごとの季節に合わせた行事企画、曜日ごと、利用者様の好みの余暇活動の企画等を実施しました。曜日の偏りがなく万遍なく行事企画を実施できるよう工夫し、利用者様に満足していただけるよう提供しました。

・利用者様が過ごしやすい空間づくり（環境整備）の工夫として、利用者様の作品展示スペースを作りました。相性の合う利用者様同士の配席、落ち着いて過ごせる場所の工夫をし、やりがい、生きがい、楽しみを継続できるよう支援させていただきました。

・職員一丸となって、利用者様に楽しく過ごしていただくよう、笑顔あふれる対応をさせていただき、「この職員さんは、みんなやさしい」と言ってもらった中で、職員も仕事に対するやりがいやモチベーションアップにつながっています。

・家族懇談会は、コロナウイルス感染拡大対策の為、後半は実施できなかったため、1回の実施でした。次年度は、状況に応じながら開催をしていきたいと思えます。

②チームで情報共有するための仕組みとして、報告・連絡・相談の一連のプロセスを整え、働きやすい職場づくりを目指します。

・日頃より、利用者動向の状況を職員間で共有するよう意識しながら、新規利用者獲得に向けて取り組みました。

・生活相談員の役割、介護職員の役割を明確にし、ご利用者の受入れを迅速かつ柔軟に対応しました。

・外部研修へ、2名参加することができました。職員のスキルアップ、デイサービスのさらなる質の向上に向けて、今後も外部研修へ積極的に参加できるよう取り組みます。

③目標稼働率 83%

・年間平均稼働率 88.2%でした。

毎月、3～5 名の新規利用者を獲得することができ、常に登録状況を把握し、新規利用者の受入れ調整を実施しました。

## 【 福田町デイサービスセンターⅡ 】

### 1. 利用者動向

昨年度下半期からの稼働率低迷の影響を受け、上半期も伸び悩み月平均 50%以下の稼働率でした。デイサービスⅠと同様、新規利用者の獲得に向けて、月初めの居宅事業所回り（実績届け）では、空き状況の案内、取り組み活動について、ご利用者の写真掲載をしたお便りを手渡し、認知症ケアの取組事例をケアマネジャーへ PR しました。ケアマネジャーが困難事例として抱えているご利用者のお宅へ事前訪問し、体験利用へ繋げ、利用者獲得に向けて取り組み強化をしてまいりました。下半期は、外部居宅からの相談が増え新規利用者の獲得、デイサービスⅠからの移行、家族事情により追加利用や急な延長利用にも柔軟に対応し、下半期は月平均 65%を上回ることができました。

1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	25	26	310
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
利用実 人数	16	15	15	12	15	15	18	16	18	19	20	19	16.5 平均
利用延 人数	162	159	143	148	144	152	191	186	188	181	225	247	2.126
利用率	51.6	49.1	47.5	45.8	44.1	50.8	59.1	60	62.5	62.5	75	79.1	<b>57.5</b> 平均
平均 介護度	3.4	3.3	3.6	3.7	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.4	3.3	3.2	3.4 平均

2) 利用者動向

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2018	2019
開始者数	1	0	0	1	0	2	0	0	3	0	0	0	7	12
終了者数	0	1	0	2	1	0	2	1	0	1	1	2	11	7

3) 利用開始理由

開始理由	利用開始 合計	交流目的	ロコミ	家族の介護 負担軽減	見学・体験 で 気に入った	入浴 目的	認知症進 行予防	デイ I より 移行
人数	12	1	0	6	1	3	0	1

4) 利用終了理由

終了 理由	利用終 了合計	入院	死去	入所	本人が希望 しない	家族が希望 しない	ターミ ナル	転居	その他 (小規模 多機能) へ移行
人数	7	1	1	2	0	2	1	0	0

2. 具体的な取り組みについて

目標

①利用者様お一人おひとりが「自分らしく 安心して 暮らし続けられる居場所」と思えるデイサービスを目指します。

・利用者様の通われるデイサービスⅡは、その方にとっての学校、職場、病院、お風呂の入れる歯医者等という意味を持っています。利用者様お一人おひとりの思いは違えども「ここにきて良かった、安心する」と思える居場所となることが、職員一同ケアを行う上で嬉しい事です。同時に、利用者様の気持ちの安定がご家族支援にも繋がっているので、



今後この理念を大切に掲げ、認知症ケアに努めていきたいと思ひます。

- ・家族懇談会・運営推進会議は、コロナウイルス感染拡大対策の為、後半は実施できなかったため、1回のみの実施でした。次年度は、状況に応じながら開催していきたいと思ひます。

- ・認知症ケアの専門職として、会議では認知症ケアの学習に取組みました。

- ・外部研修へ2名参加することができました。職員の認知症ケアに対するスキルアップ、デイサービスのさらなる質の向上に向けて、今後も外部研修に積極的に参加していきま

②利用者様、ご家族の様々な事情に合わせた柔軟なサービスを提供します。

- ・認知症の利用者様を介護されているご家族への支援はとても重要と考えます。ご家族の精神的安定が利用者様の精神的安定とリンクしているからです。柔軟な追加利用や延長利用対応を今後も継続していきま

③地域の方々、ケアマネジャーとの連携を図り、信頼されるデイサービスをつくりま

- ・ご利用者の状態変化が著しい時期は、特に関係者との連携が重要となります。日頃らご家族、ケアマネジャーとの連絡調整を行いながら、信頼されるデイサービスを築くことができました。今後も継続していきま

④目標稼働率 70%

- ・年間平均稼働率 57.5%

- ・下半期は、新規利用者獲得が難しい時期でした。下半期、認知症デイサービスをどのように発信すべきか、今までの好事例を日頃のケアに生かせるよう、職員一丸となって認知症ケアに取組みました。体験利用を数回実施し、ご利用者が納得して利用できるまで、あきらめずに、ご家族、ケアマネジャー、職員と一緒に取組むことで利用継続に繋げる事ができました。

## 【短期入所生活介護施設福田町】

### 1.利用者動向

1回のご利用日数が長い方も多く、稼働率は高いが、実人数が少ない傾向がみられました。長期施設への入所まで利用したいとお問合せも多くありましたが、予約を入れるも施設入所が決まってしまう、ご利用の開始希望時期と日程が合わずご利用につながらないことも多く、長期的なご利用希望の方の受け入れが稼働の安定につながるため、できる限り受け入れられるよう、調整していきま

予約受付時のご希望も昨年よりも減少していることから、定期的にご利用される新規ご利用者様の獲得も必要だと考えます。引き続き、緊急時の利用も可能な限り対応し、空床をなくしていきま

ご利用していただくことだけに満足せず、ご自宅での生活の継続を踏まえたケアを考え実践して提案もしていき、定期的なご利用につなげていきま

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	昨年度比
稼働率 (%)	99.3	101.1	100.8	100.3	97.1	99.0	90.8	93.3	98.4	94.5	105	96.3	97.9	-6.5
実人数 (人)	60	57	59	60	64	61	64	62	60	60	59	62	60.6	-5.3
延べ 人数 (人)	596	627	605	622	602	594	563	560	610	586	588	597	595	-40
介護度	2.57	2.68	2.64	2.69	2.72	3.03	2.95	2.99	2.91	2.85	2.83	2.84	2.8	+0.02
予約受 付時稼 働率 (%)	106.8	106	106	104.5	90.5	91	87.5	85.8	84	88.5	86	88.7	93.7	-12.3
新規 (人)	3	1	5	7	7	3	8	5	5	5	8	6	5.2	+2.2

## 2.目標について

(1)ショートステイにて心地よく過ごしていただけるよう取り組みます

- ① 利用者様との関わりを増やし、丁寧に対応します
- ② 過ごしやすい環境を整備し、維持します

時間的には多くとれない中、挨拶や介助時に意識して関わりをもつことができたと思います。入退所が少なく、時間がとれる時にはカラオケや手作業、プリント学習等を一緒に行うことができました。丁寧に対応できたと思う反面、認知症状のある方に対しての関わりにおいては、より混乱を深めてしまう等不十分な場面も多くありました。時間や気持ちに余裕がない状況でもその方に寄り添った対応ができるよう、認知症についての学習を深めていきたいと思います。

座布団やひざ掛けを利用者様がご自分で取りにいけるようにしたり、手作業物品を増やし、学習プリントや塗り絵を更新する仕組みにし、環境の整備がすすんできたと思います。学習プリントや手作業は職員からの声掛けで取り組まれることが多い為、ご自分の好きな時に取り組めるような環境整備をすすめていきたいと思います。

(2)ケアの伝達、情報の共有、課題の解決に向けた申し送りが正確に行えるようにします  
ケアの伝達や会議での決定事項等の申し送りは行えましたが、情報をただ伝えることのみになり、課題解決にむけた申し送りとはまだはいきませんでした。課題を解決していくための意見を日々挙げていき、その方に合わせたケアにつなげていきたいと思います。

申し送りの更新がされていないことや、内容が抜けてしまっていることもありました。記憶に頼らないよう、更なる仕組みを作っていく必要があると思います。

(3)お荷物の数え間違いや忘れ物、返し間違いを減らします

荷物チェック表を改善しましたが、お荷物の数え間違いは多い傾向にあるため、入所時のチェックの方法を含め、減少にむけた対策を考えていきたいと思っています。

忘れ物が減少するよう、退所日使用する物は忘れ物チェック表に記載等していますが、減少には至っておりません。忘れることの多い物や忘れてしまう状況の原因分析をして、減少させるよう、取り組みます。

(4)目標稼働率 100%

平均稼働率 97.9%のため、目標稼働率を達成することができませんでした。特養等の施設入所までの期間が短く、長期間利用予定の方が利用直前に施設入所となってしまうこともあり、そのキャンセルが埋められずに稼働が上がらないこともありました。今後も同様のことが考えられるため、長期間ご利用予定の方のキャンセルを同じように利用したい方で埋めていけるようにしていきたいと思っています。

昨年度に比べ、新規のご利用者様は増えてましたが、増えた分定期的にご利用いただくことにはつながりませんでした。しかし、今までお問合せのなかった居宅介護支援事業所とつながりを持つことはできたため、今後も空床案内を出す等し、定期的なご利用を考えている方を紹介していただけるよう努めていきたいと思っています。

**【ケアハウス宮城野の里】**

1.入居者動向

1)入居年数

(2020.3.31)

	0～5年	6～10年	11～15年	16年以上	計
男性	6	1	0	0	7
女性	15	6	1	1	23
計	21	7	1	1	30

2)年齢状況

年齢(歳)	61～65	66～70	71～75	76～80	81～85	86～90	91～	合計	平均年齢
男性	0	1	1	0	1	2	2	7	82.7
女性	0	1	5	4	5	3	5	23	81.3
合計(人)	0	2	6	4	6	5	7	30	81.7

### 3)退所者数・理由内訳

退所後	特養	死亡	他施設	自宅	合計
人数(名)	0	3	2	1	6

### 4)要介護認定者・内訳

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	事業対象者	合計
人数(名)	13	6	5	1	0	0	0	2	27

### 5)介護保険サービス利用者数・内訳

サービス 種別	訪問介護		通所介護	通所リハ	福祉用具 レンタル	訪問看護	居宅療養 管理指導	ショート
	生活援助	身体介護						
人数(名)	9	1	16	1	16	5	3	2

6) 入院者：15名（内訳：圧迫骨折2、心不全5、白内障2、ガン2、狭窄症1、貧血1、真珠腫1、高血糖1）

7) 車椅子利用者：2名、歩行器利用者：10名

8) 入居待機者数：51名（2020.3.31現在）

## 2.取り組み

①「住み続けたい」と思っていただけの雰囲気づくりに努めます。

- ・懇談会や日々の生活から入居者からお話をおききし、困っていることや改善してもらいたいことなどを出していたき、気持ちよく生活できるように取り組みました。またサークル継続の支援や興味が持てるような行事、季節を感じていただける計画を立て沢山の方に参加をいただきました。

②一人ひとりの心身の状況を把握し、健康で自分らしく安心した生活が送れるように支援します。

- ・月曜日から土曜日まで朝の訪問を継続し、体調の確認と必要な方については服薬の確認、声かけを行うことができました。体調不良の早期発見にもつながりご家族への報告し受診につなげることが出来ました。ケアマネジャーや他事業所への相談、連絡を多く持つようにしたことで、転倒による歩行困難や介護サービスの利用が必要になった時には早期の対応ができ、ケアハウスでの生活が継続できました。

③職員の質の向上に努めます。

- ・仙台市内の軽費・ケアハウスの意見交換会などに参加し、自施設の良さや課題となっているところの改善にもつなげられるのではないかと感じました。施設間の情報共

有や情報交換の場有意義な時間であったと感じています。

内部研修では、感染症予防や事故防止などの学習会を行いました。

### 【福田町地域包括支援センター】

#### 1. 担当圏域の状況と課題

担当圏域の高齢化率は21.37%（田子地区20.32%、高砂地区19.75%、鶴巻地区23.33%、岡田地区29.16%）と昨年より特に岡田地区で高齢化が進んでいます。

そのため、岡田地区では後継者問題が大きく、震災後の人口減少と重なって今年度高砂地区老人クラブ連合会が解散し、単老2つ、自主サークルも1つ解散となり、高齢者の身近な集いの場が減少しました。

他の地区でも、市営住宅や古いアパートも多い地域のため、障害や認知症を抱えての独居や高齢者世帯の方の相談も多くなっています。今年度、周囲から孤立していたために発見が遅くなり亡くなった方や、病気でも病院に繋がっていなかったりしたケースの関わりもありました。また、家族に障害を持つ方がいて、包括だけでは難しく、関係機関と協力しての関わりが多い年でした。このようなケースが今後増えてくると考えられ、SDHについて職員も深く学んでいくことや地域や関係機関との連携をより強めていく必要性、特に幅広い年代とのつながりが重要であると感じています。

#### 2. 2019年度の総括

##### ① 予防プラン件数（件）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラン数	180	187	195	194	199	194	201	203	207	207	206	205
委託数	18	20	22	20	20	18	18	19	18	20	22	22

##### ② 相談件数(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
148	122	103	118	99	96	91	106	99	78	89	109

※相談内容としては、介護保険の相談が最も多く、認知症や虐待や経済的困難、見守りなどプラン以外の相談も増えています。

##### ③ 早期の相談に結びつけるための取り組み

・地区社協総会・第一・三民児協の会議には参加し顔の見える関係づくりや包括のPRを行いました。

・地域のサロンや茶話会などにも参加し、包括や健康についての普及啓発を行いました。

・包括の広報誌を年3回作成しPRに努めました。(7月、10月、1月)内容は包括や地域の活動紹介や制度の紹介などを行いました。

##### ④ 認知症の普及啓発と早期相談・本人や家族の支援のための取り組み

・認知症サポーター養成講座を2回行いました。また各町内会のサロンでも認知症についても普及啓発を行いました。

・認知症（ひまわり）カフェは今年度大雨や感染症対策のため3回中止となりました。参加者は今年度139名でした。地域のボランティアが3名協力して下さっています。認知症初期の方で介護保険に結びついていない方を誘ったり、回覧だけでなく薬局にチラシを貼ってもらったりなどの啓発も行いました。

#### ⑤地域の実情把握と地域における支え合いの体制づくりの取り組み

・地域ケア(個別)会議を年2回開催し、地域の参加者、事業所などと高齢者の課題や支援方針などの情報を共有し役割を確認、ネットワークの構築を図りました。

・包括ケア会議は各小学校区で3回、全体会議を1回、計4回開催しました。今年度のテーマは「相談先・繋ぎ先で困ったこと、うまくいったこと」「他人事じゃない認知症」について地域の関係者と話し合いました。ただ、この先に何をしていくか具体策が出ないことが課題です。

・高砂小夏の講座に参加し、小学生に高齢者体験の講座を行ったり、田子小土曜講座に参加したり、広い年代とつながれるよう活動も行いましたが、今後工夫が必要であると感じています。

#### ⑥ケアマネ支援の取り組み

・ケアマネ支援としては、今年度高砂包括と合同で2回ケアマネカフェを行い、ケアマネの横の繋がりへの支援を行いました。また、宮城野区の包括合同で「ケアマネのつどい」として4回研修会を開催しました。

#### ⑦権利擁護の普及啓発の取り組み

・地域の方向けに、成年後見制度の周知を目的として「相続」をテーマに学習会を行いました。また、事業所向けに「高齢者虐待の対応について」弁護士を講師に学習会を行い、好評を得ました。

#### ⑧介護予防の取り組み

・介護予防教室は年20回開催しました。今年度は男性の参加を目的に「男性のための料理教室」を行い好評でした。また、介護予防教室をきっかけとして防災集団移転地の新原田地域でも運動教室の支援を行い、来年度立ち上げ支援を行うことになりました。

・南蒲生では、地域の事業所の協力でなんとか毎月健康教室を継続することができました。

・自主サークルや運動教室のモニタリングを行い、課題に対しての支援を行いました。下岡田元気クラブが閉会したことが残念です。

・仙台市の地域リハビリテーション支援事業を活用し、今年度2か所の茶話会で運動を取り入れました。

#### ⑨職員の質の向上のために

・仙台市・宮城県等で行う研修会には、職員一人一人が積極的に参加できました。

・今年度は、ケース会議を月3回程度と回数を増やすことができました。ケースの共有と意見を出し合うことで、チームとしての関わりを意識できたと思います。

⑩その他

- ・東北文化学園大学の社会福祉士実習の受け入れを行いました。

【居宅介護支援 宮城野の里】

1. 利用者動向

昨年度末から今年度末にかけて退職、退職、休職、異動と動きがあったことと、また、それに伴い居宅未経験者4名が順次加わったことで、引継ぎや教育、指導などに沢山の時間を要しましたが、その様な中でも、現任全員が35名以上（常勤換算）の件数を維持、新任もその半数から三分の二まで件数を増やし、件数を維持することができました。現在は新任も力をつけ、30名以上担当できる様になった為、次年度は期待できると思います。

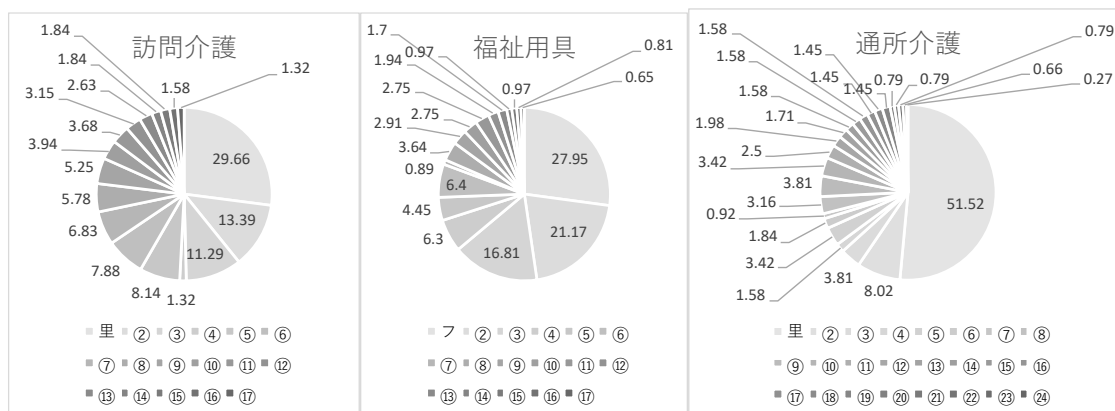
① 利用受付

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
新規	5	4	0	6	4	6	5	12	5	3	2	8	60
終了	6	5	5	4	4	5	11	3	4	3	6	1	57
新規紹介元	福包括	利北包	利中包	高包括	多西包	七ヶ浜包	病院	蛇田包	本人家族	燕沢包	他居宅	サービス	合計
	23	7	0	1	0	0	6	0	18	1	1	3	60
終了理由	死亡	老健	療養型	長期入院	包括	特定	グルホ	特養	小多	看小多	有料特定以外	その他	合計
	22	7	5	4	4	2	0	7	0	0	2	4	57

② ケアプラン作成数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
介護	148	153	151	147	147	154	148	153	153	148	148	143	149.4
予防	6	6	6	6	6	5	6	6	7	7	8	8	6.4
合計	154	159	157	153	153	159	154	159	160	155	156	151	155.8

③ 一年間で利用したサービス提供事業所の数と割合



※里＝宮城野の里 フ＝福祉用具相談センターフィット（宮城民医連事業協同組合）

上記の他は、小規模デイ7カ所、認知デイ3カ所、通所リハ10カ所、訪問リハ1カ所、訪

問看護 13 か所、訪問入浴 5 か所、短期入所 19 か所の利用でした。サービス選定時の支援を適切に行い、中立公正なケアマネジメントを確保するとともに、内部サービスに対しては、利用者の声や地域の評判、外部の好事例を積極的に伝えるなど連携強化に努めました。

## 2. 目標に対する取り組み

① 地域に開かれ、ご利用者に選ばれる介護の相談窓口・事業所を目指します。

- ・ 仙台と利府の地域包括支援センター4カ所には毎月1回以上訪問し、多賀城、七ヶ浜も含め、事例検討会や交流会には積極的に参加して、関係機関との顔の見える関係作りに努めました。
- ・ 満足度調査は無記名、郵送での実施により、率直なご意見を頂くことができました。

② 特定事業所として、地域のケアマネマネジメント機能向上の取り組みを行います。

12月に近隣の居宅介護支援事業所に呼びかけて「今さら聞けないお金の話」というテーマで研修会を開催しました。主任ケアマネ2名が中心になり、費用を減額できる制度や無料で受けられるサービス、それらを活用した事例の紹介、質疑応答、意見交換など行いました。「サービスと利用料は切り離せない」「ケアマネの知識で生活が変わる、選択肢も広がる、すごく勉強になった。」等の感想を頂きました。

## 【食養部門】

### 1、今年度の総括

入居者様、利用者様共に、療養食、介護食の対象の方が増え、特にケアハウスの入居者様の療養食の方が増え、通院している病院栄養士との連携が重要に感じた一年でした。

年度の途中からパート職員の退職後、体制を1名減としました。毎月の会議にて安全でおいしい食事を提供できるように話し合いを行い、職員3人体制で行う日もあるので調理しやすく盛り付けしやすい料理に変更しました。行事食も例年だと事業所ごとに開催していたが、今年は行事食の日を統一して行うようにしています。

10月に台風の影響で施設近隣の道路が冠水して通勤しにくい状況でしたが、全員出勤出来て業務を滞りなく行えました。

新型コロナウイルスの感染流行の影響で、マスクなどの衛生品の購入が困難でした。手洗い・うがいをいつも以上に徹底して行いました。

### 2、具体的な取り組み

#### 1) 入居者様、利用者様に喜んでいただける食事

①毎年行っているケアハウスの食事アンケートでは、今年は朝食や選択食のことについてアンケートを行った。朝食では納豆の回数を多くしてほしいと要望が複数あり、選択食では普段食べられない料理が出てきて楽しみという意見がありました。年度の途中から職員の欠員により選択食を行っていないので、代替りのイベント食ができないか検討していきます。



## 2) 介護食、療養食の提供

- ①トロミの作り方を調理師にしてもらい 1 年経過しました。専門に行うことによりトロミの濃さにバラつきがなくなり、同じ濃さのトロミを掛けられるようになりました。
- ②主食ではご飯・軟飯・お粥の他に、軟飯とお粥の中間の硬さの要望があり、混合して作り提供することにしました。
- ③食事介助や食べるのに時間がかかるため、食時提供時間より早く食事を召し上がる方が増え、個別に調理・盛り付けし食事提供時間前に提供することができました。
- ④ケアハウスの入居者様で療養食が必要な方に、病院の栄養士と連携し、情報を共有して食事管理を行うことができました。

## 3、今年度の行事食の内容

月	行事名	献立
4	観桜会	彩りおこわ、鯛真丈桜蒸し、山菜とエビの酢味噌和え、ずんだ豆腐、桜花の清汁
5	宮城野寿司開店	握りたてお寿司の食べ放題
6	ステーキ祭り	焼きたて和風おろしステーキ、夏野菜サラダ、季節の果物野菜スープ
7	里まつり	焼きそば、カレーライス
7	七夕祭り	生姜ご飯、魚の南蛮漬け、アスパラの煮浸し、長芋の味噌そばろ
8	ビアパーティー	ホタテのバター焼き、焼き鳥、つくね焼き、枝豆他
8	お盆	おはぎ、南瓜のそばろ煮、胡瓜と菊の酢の物、おくずがけ
9	敬老会	赤飯、刺身盛り合わせ、エビ真丈ユカリ揚げ、茶わん蒸し、果物盛り合わせ、赤だし汁、
10	宮城野寿司開店	握りたてお寿司の食べ放題
11	ステーキ祭り	焼きたてのサーロインステーキ・マッシュポテト添え、グリーンサラダ、果物、シーフードスープ
12	忘年会	海鮮鍋、イクラのおろし和え、イチゴババロア
1	お節料理	有頭海老酒煮、筋子他の盛り合わせ、おせち用炊き合わせ黒豆、三色なます、のし鳥松風焼き、あんこ餅、お雑煮
3	ひな祭り	散らし寿司、うるいのマヨネーズ和え、露の甘辛炒め、清汁



## 介護老人福祉施設 十符・風の音

### 地域密着型特別養護老人ホーム 風の音サテライト史

2019年度も基本理念を中心に、入居者をはじめ施設をご利用される方々にとって安心できる場所となるよう取り組んで参りました。町内会の行事への参加や施設のご利用等で顔の見える関係性の構築も進んでいます。何より地域の子供たちが安心して遊べる場所になっているのは、それを見る入居者の生活も豊かになると感じています。しかし、新年を迎えてから新型コロナウイルス感染拡大予防のため、施設への立ち入りを制限することで今までとは全く違う状況になっており、今後の動向ではさらに厳しい選択を迫られることがあるかもしれません。今は感染予防を徹底的に行い、入居者や職員の安全を最優先していきたいと思えます。

施設の経営は制度と現実のはざままで非常の厳しい状況が続いています。介護職員等の不足もあり各担当者が十分にその職務に集中できない中、最大限奮闘してくれたことに感謝しています。しかし、現状以上の努力が求められていることが事実です。経営に関しては施設全体で目標が共有されておらず脆弱さが露呈されたと思えます。次年度は経営について各職場が意識できる取り組みを検討していきたいと思えます。

#### 【風の音長期入居】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予算延利用者数	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,450	1,550
実績延利用者数	1,215	1,234	1,215	1,317	1,328	1,200	1,312	1,300	1,347	1,381	1,280	1,358
稼働率	81.0%	79.6%	81.0%	85.0%	85.7%	80.0%	84.6%	86.7%	86.9%	89.1%	88.3%	87.6%
平均介護度	4.2	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2
1日現入居者数	41	39	41	42	44	42	40	43	43	44	45	44

#### 【風の音短期入居】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予算延利用者数	300	330	300	330	330	300	330	300	330	330	290	330
実績延利用者数	352	359	322	310	377	343	338	335	348	357	381	369
稼働率	117.3%	108.8%	107.3%	93.9%	114.2%	114.3%	102.4%	111.7%	105.5%	108.2%	131.4%	119.0%
平均介護度	2.6	2.6	2.6	2.9	2.8	2.5	2.6	2.6	2.5	2.6	2.8	2.8

## 【長期入居】

〔相談員〕

### 1、2019年度の目標

入居者・ご家族が安心して入居できる特養を目指します。 **評価：達成**

### 2、具体的取組

①実態調査に伺った際には、入居されてからの過ごし方や料金など細かなところも説明し、入居がスムーズに運べるようにします。 **評価：達成**

・実調用紙に書き出しておくことで、スムーズな実調・入居に結び付けられています。

②公平な入居が進められるよう、受け入れる側の環境や対応についても検討します。 **評価：達成**

・施設側の受け入れ状況について、明確なものを掲げることで優先順位の高い方から公平に検討し入居を進めることができました。

③利府町保健福祉課の担当職員にも参加していただき情報収集や、助言をいただきます。

**評価：達成**

・開催した入居判定委員会にほぼ参加をしてくださいました。様々な助言をいただき、申請者対応や判定会議の内容について見直す機会となっています。

④入居者の情報を他部署と共有することで、これまでと同じ暮らしのお手伝い出来るよう努めます。 **評価：達成**

### 3、全体の総括

今年度は申込待機者の状態把握に努めることを重点的に行い、待機者の正確な人数を把握することができました。その中で入居判定委員会を8回開催し、18名の入居に結び付けることができています。

〔施設ケアマネジャー〕

### 1、目標

認知症状に苦しんでいる入居者の権利を護ります。 **評価：未達成**

・お一人お一人が違う症状の中、その人らしさは継続できたと思いますが、十分ではなかったように思います。自己選択自己決定等、基本的な部分をしいかりおさえたいと思います。

### 2、具体的取組

①毎日、介護記録を確認します。 **評価：未達成**

・毎日に行えませんでした。1日の仕事の流れに組み込めるような仕組みを作りたいと思います。

②毎日、ユニットを回り、職員から情報を取集します。 **評価：未達成**

・日々多忙でユニットを回ることはできていませんが、会議報告書等から情報収集を行いました。

③困っている主体が職員なのか、入居者なのか課題分析をします。【評価：未達成】

④認知症と人権に関する外部研修に参加します。【評価：達成】

### 3、全体の総括

前任者が退職したことに伴い今年度の事業計画を引き継ぐ形になったので、取り組みについては、ほぼ未達成という結果となりました。

ケアプランを作成するには、しっかりしたアセスメントが重要であることから、入居者の声に耳を傾け、課題の抽出を行い、パーソンセンタードケアや自律した生活に重点を置いた計画を立てられるようにしていきたいと思います。

#### 【ユニットリーダー】

##### 1、2019年度の目標

・働きやすい環境づくりに努めます。【評価：達成】

・リーダーとしての自覚を持ち、成長します。【評価：達成】

##### 2、具体的取り組み

①リーダー会議にて各部署の報告やリーダー同士が抱えている悩み、施設全体で改善しなければならない問題をその場で話し合い解決します。課題について積極的に意見を出し合い、より働きやすい環境づくりに努めます。【評価：達成】

・リーダー会議内で議題にあがったことを話し合い、環境作りに意識して取り組むことができました。リーダーが意見を出しやすく、話しやすい雰囲気づくりもできてきました。

②ご家族からの意見や大きな事故に関して報告し、原因や対策など情報共有をして話し合います。【評価：達成】

・会議内で情報を共有し、ユニット職員へも周知を行うことができました。

③リーダーとして成長できるように外部の研修に参加します。リーダー会議、ユニット会議内で研修内容を報告し、情報を共有します。【評価：達成】

④各職員へ能力に合わせた助言や教育が出来るように情報の伝達、説明能力、判断力向上に努めます。【評価：未達成】

→助言や指摘をする機会がありますが、相手に上手く伝わらないことも多くどのように助言や指摘をしていいか迷いもあります。今後もリーダーで意見を出し合い、解決に繋がっていきます。

### 3、全体の総括

今年度も同じメンバーだったこともあり話しやすい雰囲気づくりができていました。そのためユニット内で抱えている課題や悩みを相談することができていたと思います。解決することばかりではなく難しいことも多いですが、今後もリーダー会議が相談の場となるようにします。来年度は勤務の見直しや業務の改善も行い、働きやすい環境づくりを行います。リーダーとしての自覚も忘れず、成長していきます。

## 【ショートステイ】

### 1、2019年度の目標

利用者、ご家族が安心して利用を続けることができ、またケアマネジャーに風の音を信頼して紹介してもらえるショートステイを目指します。【評価：未達成】

・骨折事故や苦情があり、全ての利用者、ご家族に安心した利用を提供できませんでした。しかしその後は、同じことが繰り返されないよう、具体的に対策を検討しケアを提供しました。ケアマネジャーからは新規の紹介が多くありました。また必要に応じて連絡、相談し連携を大切にしました。

### 2、具体的取組

①ご家族、ケアマネジャーからの情報をユニット・他部署に（口頭、メール）迅速に伝え、利用中も在宅でのケアが継続的に提供できるようチームケアを行います。【評価：達成】

②利用中の様子が具体的に伝わる記録、利用状況報告書を作成します。【評価：未達成】

・記録の表現方法にご指摘を受けました。

③送迎時等、直接コミュニケーションを図れる機会を大切にし、安心してご本人を送り出していだけるようになります。【評価：達成】

④満足度調査のアンケートを実施し、サービスの質の向上を目指します。【評価：達成】

・今年度もアンケートを実施し回答率57・6%でした。多くの方からご利用に「満足している」と回答をいただき私達の自信にもつながりました。今後も皆様からの“声”を大切にサービス向上に努めます。

⑤発生事項について迅速に事実確認を行い、丁寧な対応を行います。【評価：達成】

⑥同じことが繰り返されないように具体的に対策を検討しその後のケアを提供していきま。【評価：達成】

### 3、2019年度稼働率 平均稼働率 114% 平均介護度 2.6

	新規利用者数（名）		新規利用者数（名）
4月	1	10月	6
5月	4	11月	3
6月	3	12月	3
7月	4	1月	3
8月	4	2月	1
9月	4	3月	2

## 2019 年度キャンセル等一覧

	施設 入居	他SS 利用	入院中	体調 不良	本人の 不安	家族の 都合	日程 変更	病院 受診	死亡	利用中 退所	その他	計	カバー日数	カバー率
4月		7	29	13		4	17				15	85	110	129.4%
5月	29	8	5	10		12	9	2			14	89	104	116.9%
6月	15	5	23	8		16	2	2		1	28	100	75	75.0%
7月	17		7	2		26	6	5	8	3	14	88	100	113.6%
8月	13		31	2		34	10	3			1	94	140	148.9%
9月	30	11	19			23	13	2			9	107	126	117.8%
10月	29	24	29			11	9	4		2	4	112	119	106.3%
11月	6		38	3		19	3				6	75	72	96.0%
12月	12		28			3	6				10	59	89	150.8%
1月	11	4	13			5	10				4	47	38	80.9%
2月	3		21	8		9	15				4	60	87	145.0%
3月			10	2		10	13				9	44	53	120.5%
日数計	165	52	224	35	0	168	96	18	8	6	103	875	1003	116.75%

### 4、全体の総括

1年を通して骨折事故が3件、苦情が2件あり「安心して利用できる」といった点では目標が達成できませんでした。しかし、事故や苦情の内容に関わらず、迅速に事実確認と原因の分析、今後の対応策について検討し丁寧な対応を心がけました。

また今年度は認知症の症状が強く、他のショートで受け入れが難しい方のご紹介が多かったです。受け入れにあたって現状を詳細に確認しユニットに伝えるようにしました。また、継続して利用してもらえるようにするためにはどうしたら良いかを職員全員で検討し、毎月ご利用いただいています。

利用を断ることを考えるのではなく、「ショートステイの果たすべき役割は何か」、「ご本人・ご家族の思いに寄り添いながら何ができるか」をたくさん考えケアを行いました。そのことはショート職員全員のスキルアップとなり、その形が安定した稼働に繋がったと思います。

### 【食養】

#### 1、目標

入居者・利用者が安心・安全に楽しめるような食事を提供します。ひとつひとつ丁寧に、食の安全を意識し日々の業務を行います。 **評価：達成**

・各々ミスやミスの起こりえる作業について情報共有し会議で話し合いながら日々の業務を行いました。

#### 2、具体的取組

①サービス担当者会議に出席し多職種連携のもと意見交換を行い、入居者の生活史に寄り添った食事を提供出来るように努めます。入居者の食事状況の観察や他職種との情報共有を通して、個々に合わせた食事提供に努めます。 **評価：達成**

②入居者からいただいた日々の食事に対するご意見をもとに、給食会社へ意見を伝えることで日々の楽しみとなるような献立を提供できるよう努めます。 **評価：達成**

③異物混入や禁止食材の提供が無いようチェック体制・緊急時対応を整え、丁寧に確実な

作業を行います。ひとり一人の意見を尊重し、ひらかれた職場環境作りを心がけます。【評

価：達成

④外部研修・内部研修に積極的に参加し、自己研鑽に努めます。また、参加出来なかった職員へは伝達を行い情報の共有を行います。【評価：未達成

・研修の伝達を会議内で行うことができませんでした。

### 3、全体の総括

今年はミスなく丁寧に安心・安全な食事の提供を目指し、かつ給食会社へ食事の要望を伝え楽しめる食事の提供も併せて目指しました。細かなミスはありましたが再発防止に向け話し合いの機会を設けられ、衛生に関する事故はありませんでした。今後はより入居者・利用者のQOL向上を目指し個々に合わせた食事の提供を目指します。

### 【ボランティアコーディネーター】

#### 1、目標

ボランティアさん、地域、施設との懸け橋になります。【評価：達成

#### 2、具体的取

①ボランティア委員会と協力し、葉山町内会のお祭り、清掃活動に参加できるよう、早めに情報を収集し職員に参加を促していきます。葉山保育園との関係を継続していきます。風の音からも保育園の運動会や夏祭りに参加していきます。毎月の「風の音だより」の発行を継続していきます。【評価：達成

・ボランティア委員会と協力し、町内会のお祭りや葉山清掃に毎回職員数名で参加することが出来ました。また、風の音だよりも毎月の発行を継続しています。

②ボランティアの必要性について、委員会等で発信し、利用者様の日常の中での楽しみや社会とのつながりを大切にしていきます。【評価：達成

・勉強会にてボランティアの必要性を確認しています。また、開催は来年度になりますが、新たにお買い物イベントの提案も行なえました。

③ボランティア登録者も高齢化しており、来所人数も減っています。利府町のいきいき活動事業に登録している方にも声がけし、新規ボランティアを増やしていきます。【評価：未

達成

・利用者のご家族より新規の演芸ボランティアの登録がありました。個人については再開者を含めて3名増えましたが、年齢による体調不良で4名が減少となりました。減少数の方が多いため、評価を未達成としました。

#### 3、全体総括

委員会内で利用者、ボランティアからの声を共有することで、売店や将棋対戦相など、その時々で必要なボランティアが把握できました。どちらも実際に承諾してもらいましたが、仕事の都合や体調不良の為、長期的な活動に結びつくことができませんでした。コーディネーターとして対応に不備が無かったか振り返りを行ない、利用者・ボランテ



ィア・職員が、双方とも気持ちよく活動が出来るよう努めていきます。

## 【事務】

### 1、目標

利用者・職員・家族から信頼される事務職員を目指します。【評価：達成】

### 2、具体的取組

①地域活動にも積極的に取り組みます。【評価：達成】

②職員間で、修繕等の情報を共有し、少しでも早く対応できるようにします。経営については、本部とも相談をしながら今後の経営方針について検討していきたいと思います。また、経営状況について職責・リーダーを通して伝えていきます。【評価：達成】

③施設の窓口として、接遇に気を付けた対応を行いたいと思います。【評価：達成】

④家族からの質問に出来る限り応えられるよう、介護保険の学習を行いたいと思います。また、請求等の質問に対しても素早く対応していきたいと思います。【評価：未達成】  
・請求書等の問い合わせに対しては迅速に対応できましたが、学習については不足していました。

⑤法人事務会議での学習だけではなく、接遇・簿記・介護保険等の知己を深めるため、積極的に研修に参加していきたいと思います。【評価：未達成】

・法人事務内の学習会のみにより、外部研修には参加できませんでした。

### 3、全体の総括

実務以外の学習については、積極的に機会をつくる事が出来ませんでした。しかし、職員からの疑義にはすぐ対応するように努め、利用者やご家族へは、丁寧な対応を心掛けました。施設の窓口としての心構えを意識した1年になりました。

## 【LSA（ライフサポートアドバイザー）】

### 1、目標

町営住宅に住む高齢者世帯の方々に必要なサポートができるよう、利府町との連携を図ります。【評価：達成】

### 2、具体的取組

①葉山シルバーハウジングとその他の利府町営住宅への訪問を行い、入居されている方の健康と生活状態を確認し、毎月利府町へ報告します。【評価：達成】

②年4回、利府町都市整備課、保健福祉課、地域包括支援センターとのLSA定例会議に参加し情報共有を図ります。【評価：達成】

③訪問の際、様々な相談に対応できるよう、介護保険をはじめとする制度関係や、インフォーマルな社会資源等の知識を深めます。【評価：達成】

### 3、全体の総括

毎年確実にこの事業を行うことで、利府町との信頼関係の構築の一助となっていると思

います。困っている方を見過ごすことなく、どの関係部署につないでいくのか、迅速且つ的確に行っていけるようにしていきたいと思えます。

【2019年度事故集計】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	2		3	3	3	2	1	0	5	0	3	1	23
転落・滑落	2		4	3	3	0	3	3	1	3	1	2	25
誤嚥・窒息	0		0	0	2	0	0	1	1	0	0	3	7
誤薬・誤配	3		0	1	0	2	2	2	2	0	2	1	15
異食・誤飲	1		0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	4
暴力	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
紛失・破損	0		0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3
感染症	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無断外出	1		0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
褥瘡	0		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
自傷による外傷等	2		3	0	2	1	2	0	0	6	1	4	21
介護中の外傷等	0		1	0	0	2	2	1	3	8	15	4	36
原因不明の外傷等	8		17	14	11	7	10	12	10	0	6	12	107
その他	1		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
計	20	0	28	23	24	14	21	19	23	20	28	27	247

【2019年度ヒヤリハット集計】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	15		14	8	18	20	23	13	13	26	16	0	166
転落・滑落	15		11	9	8	24	11	9	5	10	8	5	115
誤嚥・窒息	4		3	1	0	1	1	1		0	0	1	12
火傷	3		0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	6
異食・誤飲	0		1	2	1	0	0	0		3	0	0	7
暴力	0		0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
紛失・破損	2		0	1	0	1	1	2	3	1	1	0	12
無断外出	2		1	6	24	5	13	3	2	4	0	2	62
褥瘡	0		0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	5
自傷による外傷等	1		0	5	1	0	0	1	0	0	0	5	13
介護中の外傷等	2		0	0	0	0	3	0	1	2	2	0	10
原因不明の外傷等	0		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	1		1	1	0	1	1	4	0	2	0	0	11
計	45	0	31	34	53	52	53	33	27	49	32	13	422

# 2019年度活動報告一覧

	施設	委員会	学習会	地域	長期入居部門	短期入居部門
4月	辞令交付式 避難訓練	*各委員会月1回定期開催 *入居判定委員会随時開催 *ボラ：毎月風の音たより発行 *事対：毎月車いす点検 安衛：腰痛予防ベルト配布 食中毒・感染症予防及びまん延防止検討委員会 事対：ベッド点検 食事：マニュアル確認 医務：胃ろう交換	管理者：防災について	町内会総会 LSA定例会議 葉山保育園入園式	お花見	お花見&いちご狩り外出
5月	ご家族事業報告会 入居者定期健診	事対：杖・歩行器点検 社保：財政活動・国会要請行動 リーダー：夜間緊急マニュアル作成 医務：入居者検診 ボラ：マニュアル見直し、Tシャツ作成 生活：特浴清掃	事対：搜索訓練		菖蒲湯 お茶会 個別外出 おやつ作り	しょうぶ湯、トマト農園ランチ
6月		事対：手すり点検 社保：財政活動、平和行進 ボラ：施設周辺ゴミ拾い リーダー：夜間緊急マニュアル作成	生活：食中毒予防について	町内会清掃活動	あやめ祭り 個別外出 ドライブ	新緑ドライブ
7月	前期職員健康診断	生活：マニュアル見直し 食中毒・感染症予防及びまん延対策委員会 事対：椅子・テーブル点検 社保：原水禁壮行会 ボラ：施設周辺ゴミ拾い リーダー：夜間緊急マニュアル作成	事対：身体拘束廃止について	LSA定例会議 町内会清掃活動	個別外出 おやつパーティ ドライブ かき氷 花火	七夕飾り作り
8月	風の音ふれあい祭り	事対：ナースコール点検 社保：原水禁世界大会 ボラ：葉山夏まつり参加 生活：マニュアル見直し	安衛：ターミナルケア・精神的ケアについて	町内会夏祭り	花火大会 スイカ割り 個別外出	花火大会
9月	全職会議 事業計画中間報告書作成	事対：ベッド点検 生活：嗜好調査 食事：嗜好調査 社保：財政活動 医務：救命講習会、胃ろう交換 ボラ：施設周辺ゴミ拾い	医務：医療関係について	町内会清掃活動	敬老会 食事会	紅葉ドライブ
10月	避難訓練・消火訓練（夜間想定）	食中毒・感染症予防及びまん延対策委員会 事対：杖・歩行器点検 社保：国民大集会 ボラ：ボランティア交流会 医務：胃ろう交換、入居者検診	事対：搜索訓練（夜間想定）	LSA定例会議	おやつ作り 居酒屋 芋煮会 ハロウィン	せんだい農業園芸センター外出
11月	職員面談 レットトライヘルス ストレスチェック	事対：手すり点検 社保：福祉ウェーブ、財政活動 医務：インフルエンザ予防接種 生活：特浴清掃	感褥：感染予防、褥瘡予防について	中学生キャリアシップ	鍋 芋煮会	クリスマスオーナメント作り
12月	レットトライヘルス インフルエンザ対策開始（マスク着用、居室面会、ボラ受入中止、地域子供出入り禁止等）	事対：椅子・テーブル点検 安衛：セルフチェック	リーダー：認知症について		クリスマス会 柚子湯	ゆず湯、クリスマスカード作り
1月	後期職員健康診断 事業計画作成	食中毒・感染症予防及びまん延対策委員会 事対：ナースコール点検 社保：財政活動 リーダー：ユニット費作成	ボラ：ボランティアについて 事対：リスクマネジメントについて	LSA定例会議 町内会廃品回収	新年会 おやつ作り	お飾り作り
2月	委員会編成 ユニット費交渉 利府町都市借受申請	事対：ベッド点検	生活：プライバシー勉強会		節分 バレンタイン	豆まき、チョコフォンデュ
3月	全職会議 事業報告作成 LSA契約	事対：杖・歩行器点検	管理者：職業倫理と法令遵守について		ひな祭り おやつ作り	パフェ作り

### 【サテライト史長期入居】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予算延利用者数	570	589	570	589	589	570	589	570	589	589	551	589
実績延利用者数	510	527	496	469	520	490	494	491	511	533	491	540
稼働率	89.5%	89.5%	87.0%	79.6%	88.3%	86.0%	83.9%	86.1%	86.8%	90.5%	89.1%	91.7%
平均介護度	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6	4.5	4.4	4.4	4.3	4.5	4.4
1日現入居者数	17	17	17	16	16	17	15	17	16	18	17	17

### 【サテライト史全体】

#### 1、目標

地域、家族に愛される施設にしています。【評価：達成】

#### 2、具体的取り組み

①ご家族と日頃の情報共有を行い、協力体制を作ります。本人、ご家族の意向を確認しながら取り組みます。【評価：達成】

②職員間の情報共有方法を考えていきます。【評価：達成】

・ケース記録へ重要事項や状態変化の入力が行われており、連絡ノートを併用することで、情報の共有が行えています。

③必要に応じて、内部研修を開催します。外部研修へ（リスクマネジメント、権利擁護、感染症対策）参加し、参加者は施設会議の中で、伝達学習をします。【評価：達成】

・施設での看取りに不安があり、9月に内部研修を行っています。また、研修後の伝達を行うことが出来ています。また認知症の周辺症状の対応方法について、内部研修を行っています。

④地域の行事や学習会へ参加していきます。ボランティアを受け入れます。地域の集いの場として施設を開放します。【評価：達成】

・毎月1回伝伝の会で地域の方々の集いの場となっています。  
 ・施設利用時の決まりごとを作成し、互いに気持ちよく利用できるようにしています  
 ・地域の学習会へ参加し、他施設の情報を聞くことが出来ています。  
 ・ボランティアを受け入れ、入居者の楽しみになっています。2019年度ボランティア122名を受け入れています。

#### 3、全体の総括

・施設利用団体が増えています。気持ちよく利用していただくために、施設利用のルールを作り、継続して利用を受け入れます。  
 ・ご家族の面会が増え、日頃から施設運営に協力を頂いています。

【ケアマネジャー】

1、目標

ご家族がわかりやすく、話しやすい環境作りを行います。 評価：達成

2、具体的取り組み

①使用する資料について、他職種と相談して変更します。 評価：未達成

・状態変化に合わせた話し合いが行われていますが、医師からの急な状態説明など、記録として残っていないものもあるため、作成します。

・随時、書式の変更を行っています。分かりやすいものや良い物があれば取り入れていきます。状態変化時の記録がPCのみのときがありました。

②今後起こりうるリスクを伝えます。又、急変時の対応も確認します。家族が意見を出しやすい話し合いの場作りを心掛けます。 評価：達成

③外部研修へ参加し、コミュニケーションスキルを学びます。 評価：達成

3、全体の総括

ケアプラン内容で、サービス内容を伝えることが出来ています。

4、その他

サービス担当者会議	43件
3ヶ月モニタリング	43件
介護保険更新	6件

【2019年度事故集計】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	1		0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
転落・滑落	1		1	1	2	2	0	1	0	0	0	3	11
誤嚥・窒息	0		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
誤薬・誤配	2		0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	7
異食・誤飲	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
紛失・破損	0		0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
褥瘡	0		0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
自傷による外傷等	0		4	1	5	6	1	0	2	2	2	1	24
介護中の外傷等	0		1	2	0	0	0	3	0	3	0	2	11
原因不明の外傷等	3		1	11	1	3	0	0	1	0	1	0	21
その他	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	0	7	17	10	14	1	5	4	5	6	6	82

【2019年ヒヤリハット集計】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	0		0	0	1	0	0	2	1	9	12	0	25
転落・滑落	3		4	5	9	3	6	2	17	22	16	1	88
誤嚥・窒息	0		1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
火傷	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食・誤飲	0		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
紛失・破損	0		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
感染症	0		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
褥瘡	0		0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
自傷による外傷等	0		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
介護中の外傷等	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
原因不明の外傷等	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
計	3	0	7	6	10	3	8	6	19	32	28	2	124

## デイサービスセンターくりこまの里

2019年度は、職員の退職が多く、認知症型の管理者が不在となり、2020年2月より休止しました。施設の管理、運営面に大きな課題が残る1年となりました。認知症型を休止したことで収入は大幅に減少します。早急に再開できるよう取り組む必要があります。また、施設の管理職を育成する必要がある、本部より施設長を配置し運営面の改善と職員の採用、定着、育成に取り組む組織の再構築をすすめています。

今年度は、予算管理など経営面での討議ができていませんでした。その反省を踏まえ、新しい職員体制で安定した経営基盤づくりと、自立した組織を目標に、職員一人一人が取り組んでいけるようすすめていきます。

### I 事業規模

#### 1. 各月ごとの利用者数と収入

##### 1) デイサービス I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	25	26
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
利用者実績数	559	589	581	585	561	546	583	525	509	423	582	609
利用者/日	21.5	21.8	23.2	21.7	20.8	21.8	21.6	20.2	20.4	17.6	23.3	23.4
稼働率	71.7	72.7	77.5	72.2	69.3	72.8	72.0	67.3	67.9	58.8	77.6	78.1
収入(千円)	4,939	5,153	4,937	4,927	4,724	4,520	4,812	4,477	4,290	3,615	5,124	5,397

##### 2) デイサービス II

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	休止	
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12		
利用者実績数	177	179	164	164	150	151	148	147	134	129		
利用者/日	6.8	6.6	6.6	6.1	5.6	6.0	5.5	5.7	5.4	5.4		
稼働率	56.7	55.2	54.7	50.6	46.3	50.3	45.7	47.1	44.7	44.8		
収入(千円)	2,270	2,495	2,154	2,221	2,003	2,031	2,058	2,085	1,903	1,807		

##### 3) 居宅介護事業所(支援含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入(千円)	459	500	451	585	532	535	555	599	502	527	527	527

## II. 各事業所・部門別

### 1. デイサービスセンターくりこまの里 I

#### 1) 利用者動向

##### ① サービス利用開始・終了者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用開始者数	1		3	1	1	1	2	2					11
サービス利用終了者数	3	1	1	7		4	1		3	4			24

##### ② サービス利用終了の理由

理由	死亡	施設入所・入院	認知症型移行	他のデ イに	転居	不調	ショー ト中心 に	その他	合計
人数	9	15							24

#### <目標>

- ・稼働率 90%

職員体制も不安定で、新規の獲得もできず達成できませんでした。

- ・利用者の自己選択、自己実現できるサービスを実践します。
- ・運動や活動を通じて、自然に集まる和みの空間を提供していきます。

#### <具体的取り組み>

- ① 「活動計画」を利用者様との会話から意見を取り入れ作成し実施していきます。
  - ・こまフロアの活動ではその日の利用者様の希望に合わせて、活動内容を変更し実施できたこともありました。活動計画作成の際も、活動を通じて人気のある活動やお好きな活動を聞きながら作成することができました。
  - ・利用人数が少ない日や職員の人数により対応ができない日には、こまフロアを開けることができないことが多かったです。
  - ・活動を計画してもドライブでは同じ場所の繰り返しとなり、「またか」との声も聞かれ、場所の工夫が必要でした。また、ドライブへ行く日数が少なく行けない方も多かったです。
- ② リハビリ体操やラジオ体操に参加して頂きます。
  - ・現在、機能訓練が行われていないため、リハビリ体操やラジオ体操を毎回行うことで、身体を動かす機会となりました。
  - ・リズム体操等を取り入れ、楽しみながら身体を動かす機会を提供しました。
  - ・リズム体操では、月毎に曲を決め、「なるこ」も使用して行うこともあり、楽しみながら参加する姿が見られました。



## 2. デイサービスセンターくりこまの里Ⅱ（認知症対応型・地域密着型）

### 1) 利用者動向

#### ① サービス利用開始 終了者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用開始者数			1										1
サービス利用終了者数				2									2

#### ② 利用終了理由

理由	死亡	施設入所・入院	通常型デイ	不調	ショート中心に	その他	合計
人数	2						2

#### <目標>

##### ・稼働率 60%

管理者不在となり 2020 年 2 月より休止しています。

##### ・利用者の情報を収集・共有し、統一したケアをします。

#### <具体的取り組み>

##### ① 利用者一人一人と向き合い、個性に合わせた対応をしていきます。

・活動や会話などから、興味や得意なことを引き出し、個性に合った対応ができました。

##### ② 利用者の情報を職員間で周知し、共有します。

・対応方法や家族からの情報をケース記録に残し、職員間で共有することができました。

##### ⑤ 体操やゲーム、脳トレーニングを通し機能低下防止します。

・体操やゲーム、しりとりやカルタなどレクリエーションの内容を工夫し行いました。

### 介護職

#### <方針>

・利用者様が安心して過ごせる空間を提供します。

#### <具体的取り組み>

##### ① お一人おひとりに合わせた介護サービスができるよう努めます。

・フロアを選択して、好きな場所で過ごしてもらえるよう工夫しました。

不安な様子が見られる方には 1 対 1 でゆっくりとお話を聞き対応することができました。

##### ② 技術を身につけ、利用者様に安心して介護を受けられるようにします。

・各研修で学んだことを、施設内研修で伝達することができませんでした。

##### ③ 研修に参加し、技術と知識を身につけ介護に役立てます。

・福祉用具の使い方の勉強会を今後計画し行なっていきます。利用者様の接し方について

プロ意識を持ち対応していきます。

## 医務部門

<目標>

- ・誤薬「ゼロ」を目指します。
- ・家族との情報交換を密に行い、利用者の体調の変化に留意します。

<具体的取り組み>

- ①薬袋を確実に活用し、確認動作を着実にを行い、特に内服時の確認は複数の職員が連携し行います。
  - ・薬袋に入れる前の確認、声かけでお互いの動作を確認し、また与薬時の声かけ、確認動作を着実にを行うことで誤薬を防ぐことができました。
- ②一人ひとりの健康状態の把握に努めます。
  - ・体調の変化や異常時の健康状態の把握に努め、家族に相談することで病院受診を勧めることができました。

## 公益部門

### 1 指定居宅介護支援事業所

#### 1) 利用者動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
支援開始数	2	1	5	2	2	1	6	2	2	1	0	2
支援終了数	1	0	0	2	1	1	1	3	4	2	0	0

#### 支援終了理由

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
死亡の為				1		1	1	1	2	1		
入所/入院	1			1	1			2	2	1		
他事業所利用												

<方針>

- ・介護保険の改正点を熟知し、法令順守に努めます。
- ・ご利用者様、家族に適切なサービスの提案、情報提供を行い在宅生活の支援を行います。

<具体的取り組みと反省>

- ① 研修への参加を通し、介護保険情報を周知していきます。
  - ・研修に2人で参加できない場合はなるべくどちらかが参加するよう努めました。また、参加して得た内容は報告し、情報の共有に努めることが出来ました。
- ② 個別ニーズを支援できるよう、関係事業所との連携を強化します。
  - ・利用者の状態や利用者を取り巻く状況に変化があった際は関係機関に情報共有をすることで連携を強化出来ました。
  - ・利用者の状態に変化があった場合は介護者や関係事業所などともに情報交換し医療機関

と連携し、必要なサービス調整を行うことが出来ました。

③ ご利用者様、家族との信頼関係をつくり、在宅生活の支援者として適切な業務遂行を行います。

・中立な立場を守りながら、利用者様がどのようにすれば安心して在宅生活を送ることができるかを考え、気軽に相談できるような対応を心掛け信頼関係を築けるよう努めました。

④ 事業所内、併設施設との協力体制を強化していきます。

・困難ケースなどは事業所内で内容を共有することはもちろんのこと、行政にも相談し適切な支援が出来るように働きかけることが出来ました。

・事業所内のケースはお互い情報共有を図り、担当ケアマネジャーでなくとも対応できるよう努めました。

## II 苦情

苦情 0件

苦情はありませんでしたが、今後も丁寧な対応を心がけます。

## III 消防防災計画

・避難訓練は計画通り開催しています。

・防火設備点検を、定期に実施しました。

## 介護老人福祉施設田子のまち

昨年度に続き職員不足の状況は改善されてはならず、各ユニットでのケア、委員会活動等に影響が出ました。そうした中、入居者様の笑顔の一つでも多く引き出したいと、職員一人一人が本当に良く奮闘しました。人手不足な中でも協力ユニットが連携し、多職種協力し合い、入居者様の暮らしを少しでも豊かにするような行事や企画にも力を注いでいました。

2019年度を振り返り一番特徴的な事柄としては、多くの新規入居者を迎えたこと。そして残念ながら同数の退居（ほぼ看取り）があったことです。このことは経営的に大変大きなダメージでしたし、職員のモチベーションも下がってしまうということもありました。ただ、看取り後の振り返りの中で、だからこそ施設理念の“二度とないこの瞬間（とき）をあなたらしく・・・”なのだと改めて気づき、日々のかかわりを大事にしていきたいと思いを新たにすることに繋がりました。

残念な出来事としては2月中旬にノロウイルスが蔓延してしまい、入居者様、職員合わせて13名が感染しました。マニュアルは知っていてもいざとなると的確に動けないということが散見され今後の課題となりました。また、発生ユニットではその後の新型コロナウイルスの感染予防のため、ご家族の面会制限対応が続き長い期間さびしい思いをさせてしまいました。新型コロナウイルスについては年度をまたいでの対策、対応となります。田子のまちに関わるすべての人の健康と暮らしを守るため最善を尽くします。

2019年度延べ入居者数 92名

### 【2019年度稼働率・介護度】

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
88.4	87.7	88.8	90.0	89.0	89.4	90.2	89.4	87.1	85.6	85.9	86.8
3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0

### 【要介護度別】

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
1名	3名	16名	26名	26名

### 【保険者別】

仙台市	多賀城市	塩釜市	柴田町	涌谷町	富岡町	石巻市	釜石市	大郷町	気仙沼市
59名	4名	2名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名

### 【性別・平均年齢】

	人数	平均年齢(3月末時)	最少年齢	最高年齢
男性	14名	78.3歳	66歳	93歳
女性	58名	85.9歳	61歳	99歳
計	72名	84.4歳		

## 【入退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	1名	0名	1名	4名	0名	2名	3名	1名	4名	1名	2名	0名
退居	0名	2名	0名	1名	1名	2名	5名	1名	5名	1名	1名	0名

## 【施設ケアマネジャー】

### 1、2019年度総括

今年度も通常のケアマネジャー業務に加えてそれぞれのケアマネジャーがユニットに入りながらの業務となりました。一つ一つの対応が後手に回ってしまうこともありましたが、ケアマネジャー間の業務分担だけではなく、相談員やユニット職員等の他部署の協力ももらいながら入居者様の生活を支えることが出来たと思います。ご家族とも、電話以外にもFAXや手紙、メール等を活用しながら関係を築くことで、以前は引き出せなかった想いも引き出せるようになりました。介護度の高い入居者様や看取りの方が増える中で、思いや意向を引き出すのはますます難しくなってきますが、来年度もケアマネ会議の中での情報交換や検討を行い、視野を広げることで全体のスキルアップを目指していきたいです。ご家族との関係構築については、ケアマネジャーだけができればいいということではなく、ユニット職員も巻き込んでいくことが必要だと思います。立場や職種関係なく、誰にでも話せる、話しやすい環境を作ることで、入居者様・ご家族にとっての安心に繋がりたいです。ご家族への話し方、伝え方を職員間で共有しながら、ご家族とユニット職員が関われる場を作っていきたいと思います。

また、入居者様やご家族の気持ちを引き出した上で、それをケアに活かせるような働きかけが不足していると感じています。多職種との情報共有を今まで以上に密にし、多職種で引き出した思いを形にしていきたいと思います。

### 2、2019年度取り組み

- ① 介護保険の更新申請について、仙台市33名、涌谷町1名、合わせて34名分行い、そのうち仙台市の方については代行で認定調査を行いました。各担当分だけではなく、臨機応変にカバーし合いながら調査を行いました。他、ADL低下に伴っての区分変更申請を1件行っています。
- ② 定例のサービス担当者会議以外では、開催した38回中、約66%の割合でご家族に参加していただき、ご家族の思いも聞きながらケアプランについて確認することが出来ました。
- ③ 仙台市等主催の介護支援専門員向けの研修会には全体で3回と少なくはありましたが、自己研鑽に努めました。
- ④ 看取り期の体の変化について、ユニット会議の中で学習会を開催しました。

## 【医務】

### 1、2019年度総括

昨年度から嘱託医が坂総合病院 総合診療科医師 2 名体制となりました。1 名産休の為、本郷嘱託医を中心に、隔週の往診に数か月ごと交代で研修医が往診に関わっていただきました。入居者様や職員と関係を築くことが出来、お互いに学ぶことが多くありました。

処方や状態の報告はメール、緊急時は電話連絡とツールが増え、必要な医療の提供や相談や対応が迅速・的確に行えるようになりました。

今年度は新規入居者様も多く、入居後間もなく体調を崩す方もいました。情報の共有、薬の管理など、嘱託医との連携を密にとり、医療対応必要な方は専門医に相談していただくなど適切な医療提供が行えたと思います。

今年度は看取りで退居された方も多くおり、最期へ向けてご家族との面談も多くありました。ご家族の思いを聞き、出来る事と出来ない事を分かりやすく説明し、多職種と連携し行えてきたと思います。

今後もよい方向に改善していけるように話し合いを大切に、すすめていきたいと思ひます。

### 2、2019年度取り組み

- ① 嘱託医との連携、必要な医療の提供が出来ました。
- ② 他職種と情報の共有・協力が行えました。
- ③ 各ユニットの吸引器の設置場所や緊急時の対応方法を定期的に確認しました。
- ④ 月 1 回医務会議を開催しました。

## 【食養】

### 1、2019年度総括

給食の提供については、業者の都合により発注システムや納品方法、配送時間帯にかかわる変更が多く、都度業務の見直しや厨房パートとの調整を行いました。また、食養主催の行事食はユニットや入居者様の意向に沿って行えました。多くユニットで企画することが出来ましたが、充分とはいえず、来年度は各ユニットの行事回数のバランスも考えて予定を組みたいと思ひます。

厨房業務としては、食事をミスなく衛生的にユニットへ配送出来るよう、検品業務や仕分け業務、食材のカット作業を行いました。また、入居者様用に水分補給用のゼリーを作ったり、定期的にユニットのキッチンやショートの清掃に入ったりするなど、入居者様の個人対応や施設の衛生にかかわる業務も行いました。

栄養ケアマネジメントは、昨年度より、入居者様の状況について細やかに各部署と相談し、個人の体調や好みに沿った対応が出来たと思ひます。

### 2、2019年度取り組み

- ① 入居者様が美味しく、食べる喜びを感じられる生活を営めるよう、委託業者と連携

した食事提供を行いました。

- ② 月 1 回食養会議を行い、衛生管理を遵守した仕分け作業や厨房業務を行いました。
- ③ 個人に合った栄養ケアマネジメントを作成、実施しました。
- ④ 計画的に非常食を使用しました。

## 【事務】

### 1、2019 年度総括

今年度は特養の稼働が昨年度よりも下回り、経営状況は厳しいものでした。しかし、予算作成においては経費削減を常に念頭におきながらも、全て削減の対象とせず、必要なところは減らさないという方針で作成しました。消耗品の使用については、リーダー会議やGSを利用して見直しを行い、施設の設備や修繕に関しては、7年目の施設を清潔感のある温かな雰囲気が消えないように維持したいと思い取り組んできました。定期的な施設の見回りの時間を作ることが出来ず、気が付いた時にしか動けなかったのは反省点です。

パソコンの入替作業については、本部との連携で各部署からの問い合わせに素早く対応が出来たので、大きな混乱もなくスムーズに終わっています。現在は特に不具合なく使用出来ています。

社会保障運動、共済の活動については、入れ替わりが激しい職員体制の中で運動の意義や活動を伝えることは難しく、どのような方法で伝え理解し、参加を促すかは今後の課題です。

今年度は反省点も多かったのですが、積極的にユニットを訪問して入居者様や職員と関わり、現場の状況を把握することで、少しずつ施設全体に目を向けながら業務を進めていけるようになってきたと思います。今後は更に計画的に取り組み、時間と気持ちに余裕を持って、ミスのないよう努めていきたいと思っています。

### 2、2019 年度取り組み

- ① 正面玄関の修繕、施設内の粗大ごみの整理、デッキの塗替え作業、ボランティアさんへの草取り依頼など、施設整備に力を入れました。
- ② パソコンの入れ替え作業、新規会計ソフトの導入をスムーズに完了出来ました。
- ③ 保管文書の整理（倉庫への移し替えや保存期間の過ぎた文書の消却）
- ④ ホームページの更新とブログを再開しました。

## 【研修】

### 1、2019 年度総括

今年度は、研修への取り組みが薄かったと思っています。年間計画に沿って進めることが出来ず、そのフォローも出来ませんでした。外部研修への参加も事前に希望を把握出来れば、参加も可能だったのではないかと考えています。

今年はノロウイルスの集団感染もあり、その際の吐物や汚物処理方法が問題となりました。頭では分かっているけど、実際動くことができない……。より実践に近い研修が求めら

れているのだと感じています。

反省点ばかりが多かった今年度です。しかし、新人研修プロジェクトでの取り組みは少しずつ成果が見えてきています。来年度は貴重な時間を有意義に活用するよう、必要な内容を精査して取り組みたいと思います。

## 2、2019年度取り組み

- ① 研修開催状況を把握し、報告書の確認をしました。
- ② リーダー会議、委員会で開催し、その後ユニット会議でリーダーや委員が講師となって開催する方式を昨年度に引き続き行いました。
- ③ 新人プロジェクト委員会と情報を共有しました。

4月		10月	人権擁護・身体拘束（36名） 夜間捜索訓練（6名）
5月		11月	メンタルヘルス（7名） 夜間捜索訓練（4名）
6月	食中毒予防と対策（11名） 急変時対応（12名） リスクマネジメント・福祉用具 （27名）	12月	
7月		1月	
8月		2月	
9月		3月	看取りについて 認知症と対応 新人研修（プライバシー保護、 法令順守、倫理 等）

※（ ）内は参加者数を表しています。



## 乳銀杏保育園

2019年度、乳銀杏保育園の運営を以下の通り行いました。

### 1. 事業規模

#### (1) 入所児童数 定員 120名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
1歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
2歳	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
3歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
4歳	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	23
5歳	23	23	23	23	23	22	23	23	23	22	22	22
合計	125	127	127	127	127	126	127	127	127	126	125	125

- ・短時間認定児は4歳児クラス2名です。
- ・4/16入所2名。年度途中に、転居で8/15退園後9/16補充になりました。1月以降の退園については、次年度の入所決定時期と重なり補充できませんでした。

#### (2) クラス編成

- ・計画通りのクラス編成で保育を行いました。常勤保育士の不足により、3歳児クラス担任及びフリー保育士をパート職員で配置しました。
- ・一時預かり事業については、人材確保ができず再開できませんでした。

#### (3) 職員体制

- ・正規職員1名が体調不良のため2月から有休取得で休み、3月15日付退職となりました。担任クラスには、フリー保育士を代替としました。
- ・9月より臨時職員(保育士)を採用し、次年度の正規職員採用につながりました。
- ・体調不良等により、正規職員が2週間程度お休みすることが何度かありました。また、家庭の事情等により、パート職員の退職や勤務時間変更がありました。随時、職員体制を検討し対応しました。

#### (4) 業務分担

- ・計画通り業務分担を行い、保育や運営にあたりました。
- ・管理部内の役割分担と連携をして園運営を行いました。必要に応じてパートリーダー会議等を行い、園内の課題の共有と解決の取り組みにつなげるようにしました。

#### (5) 保育事業内容

- ・基本的運営は、公定価格に基づいた委託費と各種補助金・利用料(延長保育・主食代・一時預かり・休日保育)によります。2019年度の保育事業収入は以下の通りです。

委託費収入	142,989,500	公定価格・副食費・処遇改善加算17%・単価改定分 所長・3歳児配置改善・主任専任・事務・療育加算
-------	-------------	---

		休日・入所児童処遇改善(106万)・栄養管理(12万)加算 施設機能強化推進費(16万)
私立保育所等助成	7,396,400	増員保育士・調理員・障害児等保育(2名)
栄養士・看護師雇用助成	1,368,000	
延長保育事業収入	3,526,900	補助金+利用料 *前年度実績 3,709,000
休日保育事業収入	8,765,400	補助金+利用料 *前年度実績 7,299,800
一時預かり保育事業収入	186,400	補助金+利用料 *休日分のみ *前年度実績 6,932,700
就労スタートアップ事業補助金	548,100	対象7名
病原性大腸菌対策助成金	158,180	
キャリアアップ研修参加支援	20,000	2名(幼児教育・食育)
コロナウイルス感染症対策	95,000	空気清浄機・ペーパータオルなど

・特別保育事業は、乳児保育・障害児等保育・延長保育・休日保育事業を行いました。各事業については以下の通りです。

- ①乳児保育は、1年を通して12名の乳児を受け入れました。
- ②障害児等保育は、対象児が新入児1名(4歳児)に、8月から通常保育からの移行で1名(4歳児)が加わり2名でした。また、次年度の保育体制を見通しながら3歳児クラスを中心に気になる子へ働きかけと、各機関と連携しての保護者への丁寧なアプローチを行い次年度の対象申請につなげることができました。
- ③延長保育利用人数は平均20名。18時ギリギリのお迎えや単発での利用が増えていきます。そのため昨年度よりも利用人数が減少しています(昨年度平均22名)。子どもにも疲れが見られる時間帯なので、担当する保育者が遊びの工夫をしながら落ち着いた雰囲気を作れるようにして取り組んでいます。
- ④休日保育利用人数は平均11名。キャンセル待ちを受け付け、利用人数の確保に努めました。延利用人数は788名で昨年度よりも181名増加しました。主任保育士が休日保育の責任者となって、予約受付や職員体制などをパート職員と相談しながら事業を運営しました。継続利用できようだいの子どもも多く、比較的落ち着いて過ごすことができましたが、卒園予定児もいるので利用児の入れ替わりが予想されます。

#### (6) 設備・環境

- ・保育活動に必要な教材や環境を整え、児童の安全と健康を守るために必要な設備や環境の整備を行いました。
- ・2019年度の主な施設・設備の整備状況は以下の通りです。  
漏水修繕工事：検査費用50万 修繕費用10万 担当業者：共栄建設及び宮春工業  
屋上の衝撃吸収安全マットの整備：バイアクション1,276,884円(税込) 担当業者：学研  
0歳児・1歳児保育室エアコン修理：137,000円(税別) 担当業者：日東通信  
園庭ブロック塀交換：880,000円(税込) 担当業者：共栄建設

## 2. 保育内容

### (1) 保育内容

- ・各クラスで担任保育士を中心に、子どもの発達を十分に理解し、年齢毎の遊びや課題別の活動を充実させ、生活や遊びを通じて一人ひとりの成長発達と関係性の育ちを促し、子どもたちが喜びや達成感を得られるように保育を行いました。
- ・0歳児クラスでは、生活や遊びを通じて担任との愛着関係をしっかり作り、丁寧にかかわる保育を大事にしました。高月齢のきょうだい児が多く、比較的安定した雰囲気での保育できました。
- ・1歳児クラスでは、新入児の生活のお世話の大変さや自我や認識の育ちでの課題が複数見られました。必要に応じて少人数活動を取り入れ、一人ひとりをとらえてねらいをもって保育することを大事にしました。
- ・2歳児クラスでは、安全に配慮が必要な児への対応を行いながら、クラスをこえて連携して保育にあたりました。楽しい遊びの提供と共に、子ども同士のやり取りを仲立ちし、かかわる力の育ちを促しました。
- ・3歳児クラスでは、個別配慮が必要な児が複数在籍し保育に困難がありました。補助保育者を配置しながら、課題をとらえて保育にあたり、保護者との共通理解につなげることができました。
- ・4歳児クラスでは、グループ活動に重点を置いて取り組みました。楽しい遊びや話し合いを通じて、どの子ども集団の中で自分の思いを出し、みんなで考えあえる関係づくりを目指しました。
- ・5歳児クラスでは、年長児としての誇らしさに応える活動の充実と、仲間をありのままに受けとめあう集団づくりに取り組みました。個別配慮が必要な児も複数在籍し、その子らしさを尊重するかかわりを大事にしました。
- ・障害児等保育の対象は4歳児2名でした。発達への援助とともに、クラスの仲間と育ちあう関係づくりを大切に取り組みました。登園が困難なケースについては、保護者支援の位置づけから各機関と連携して支援を行いました。また、3歳児クラスを中心に気になる子へ働きかけと、各機関と連携しての保護者への丁寧なアプローチの実践がみられました。今回の経験に学びながら、今後も未満児クラスから継続的に子どもと保護者への働きかけをしていきます。

### (2) 行事

- ・年間行事予定にもとづき、各行事のねらいを確認しながら取り組みました。
- ・“親子で身体を動かすことを楽しむ”ことをねらいにした遠足や、2歳児も含め2部制にして時間短縮をしたクリスマス子ども会など、この間にねらいや内容を吟味してきた行事について、方向性が定まって実施されるようになりました。
- ・5歳児のお泊り保育や太白山登山などの園外保育については、子どもの体力低下や経験の差により安全な実施が難しくなっています。太白山登山は台風の影響もあり内容を

変更して行いました。今後についても検討が必要になっています。

- ・運動会は、体育館での実施を決定しての開催でした。室内の利点を生かした内容の工夫や、子どもの姿が保護者に伝わるように意識して行い、おおむね好評でした。
- ・卒園式は、コロナウイルスの感染防止のために参加人数と内容を縮小して行いました。限られた条件の中でも、子どもたちを主人公にした良い卒園式が行えました。

### (3) 給食

- ・栄養士 1 名調理員 3 名の給食職員と連携しながら、アレルギー対応(6名)を行い、年齢発達に応じた美味しい給食の提供、食べる喜びを育てる食育活動に取り組みました。
- ・年齢発達に合った食器の選定、食材費高騰や塩分摂取基準の変更に伴うメニューの変更などについて、栄養士と現場職員が意見交換して方針を決定しました。
- ・給食業務の見直しや食材費高騰の影響等もあり、行事等の特別メニューを縮小する方向で見直しました。一方で、日常の給食メニューを美味しく楽しく食べ、残食を減らすために、配膳の工夫や給食職員との交流を企画しました。
- ・食材費高騰により、冷凍魚の一部使用や果物類の缶詰一部使用、米の銘柄変更など食料料費の削減に努めました。食の安全を保持しつつ定期的に見直しが必要です。

### (4) 健康・安全

- ・子ども達が健康で安全に過ごせるように、日々の健康状態を観察し、快適に生活できるようにしました。健康管理として年 2 回の健康診断と年 1 回の歯科検診を行いました。
- ・年間を通して感染症の流行がほとんど見られませんでした。気候等の影響もありますが、日々の衛生管理や、幼児組を中心に、手洗いとうがいの習慣化・こまめな換気を心掛けたことも効果があったと思います。
- ・3 月以降は、新型コロナウイルス感染症の国内発生により、今まで以上に感染症予防の取り組みを徹底しました。登園前の検温、登園時の手洗いを呼びかけ、園内消毒を 1 日 2 回、職員のマスク着用などを実施しました。今後も継続して取り組みます。
- ・受診が必要なケガは 8 件でした。顔のひっかき傷や口唇部裂傷・打撲などで、比較的軽微なものでした。ひやりはっと事例では、幼児の活動中の転倒や衝突などが増えていて子どもの運動機能の変化に応じて活動内容や環境を見直す必要も感じています。かみつきやひっかきなどが続いた時には、対策・振り返りをしっかり行い防止に努めました。
- ・散歩中の安全確保のため、散歩コースの点検と見直しを行いました。各地での事故事例を受け、散歩マップ等で保護者にも取り組みを伝え、活動への理解を求めました。
- ・月 1 回の地震や火災に備える避難訓練に加え、不審者対応訓練、散歩中の地震訓練や災害時の夜間保育や避難所設営の訓練も行いました。

## 3. 保護者支援と連携

### (1) 保護者の状況

- ・104 世帯中、保護世帯 1 非課税世帯 11、一人親家庭 16 世帯で、全体の 10%以上を占めています。経済的困難に加えて健康面での困難を抱えている保護者も複数見られます。虐待

の疑いで児童相談所等から連絡のあった家庭も 2 件ありました。担任保育者などを中心に見守りと声かけを行いました。一見すると困難が見えにくいケースがほとんどでした。他機関との関係で不信感をもっていた保護者が、園との関係では安心して思いを出してくれるケースもあり、保育園の役割の重要性を感じました。

- ・苦情は 3 件でした。うち 2 件は、行事のお弁当の際の衛生面への意見と同じ児とのトラブルが続いていることへの不安で、改善できるよう説明し対応しました。1 件は、「子ども同士のトラブルの際に、保育園の責任であることを明確にし、保護者同士の声かけは求めないこと、3 歳未満児クラスは相手のお子さんの名前を伝えないこと」という園の方針変更についての意見でした。園の安全管理を徹底することを求め、職員への強い態度も見られたので、法人本部や仙台市運営支援課にも報告しました。クラス担任の奮闘と、園全体の協力で個別配慮をしてお子さんの安全を確保しつつ、園の方針の説明をして理解を求めていきました。家庭状況の変化などもあり、園長を中心に保護者対応を行う中で、若干の関係性の改善が見られています。

## (2) 保護者との連携

- ・担任保育者の思いの伝わる懇談会、丁寧な個人面談の積み重ね、行事での職員の明るく・生き生きとした態度など、様々な機会を通じ、保護者に保育を伝える工夫をしてきました。懇談会や個人面談では、ねらいと内容を担任保育者と確認し、園長も参加しました。
- ・保護者会活動は、役員会に園長が参加し園の状況等を報告しました。役員は保護者を中心に、行事の運営や園庭清掃などに協力していただきました。

## (3) 保護者アンケート

- ・行事後アンケートと、年度末の保護者アンケートを行いました。
- ・年度末の保護者アンケートについて内容を見直し、①保育理念・方針・ねらいに沿った保育活動が行われていると感じているか ②保育のねらい等や子どもたちの姿が伝わっているか ③保護者が、子どもたちの様子や園の雰囲気・職員の態度から安心できているのか というポイントに絞りました。保育理念・方針に沿った保育活動が行われたかどうかを、自己評価する指標の一つが保護者アンケートだと考えました。
- ・アンケート結果は、62%の回収率で、48%が肯定的で高評価となりました。多くの保護者が、保育者や子どもたちの様子を好意的に受けとめている傾向が見られました。私たちの大事にしていることや奮闘が、ある程度保護者にも伝わっているととらえます。
- ・全体的には高評価でしたが、「方針やねらい」特に「子どもたちの様子・成長」が“わかりやすく伝えられていない”という回答は依然ありました。さらに“伝わるように伝える”ための研修や実践が必要だと考えます。
- ・傾向としては、環境の変化が大きい 3 歳児クラスや途中入園児の保護者から要望や意見が出やすいようです。丁寧な対応を継続していきます。

## 4. 職員の研修と評価

- ・全職研修等では、園内や法人内の実践をもとに、「保育所保育指針」や法人理念・保育理

念・保育方針、「全体の計画」などの理解を深めることに取り組みました。職員同士がお互いの実践や思いを知り、学び合う機会になりました。

- ・クラス会議等では、発達や活動について学び、クラスの課題を明らかにし、ねらいと方針をもって実践できるようにしました。
- ・年2回の総括会議では、前期後期ともに、どのクラスも「ねらい」をもって実践し振り返ることができていました。毎年の保育実践の積み重ねが感じられ、職員それぞれの成長も見られました。他のクラスの実践から学び実践につなげられるなど、集団で保育について考えてきたことが生かされています。今後も系統性・継続性について明らかにしながら、集団的な実践と討議を深めていきたいと思えます。
- ・園内外の研修にどの職員も参加できるよう計画し、一人ひとりが意識的に研修に取り組み、復命により全職員の学びにつなげました。
- ・保問研全国集会や宮城合研への実践報告が2本、季刊保問研への論文寄稿が3本など職員の実践研究の成果が見られました。
- ・パート職員と管理部との月1回の会議を実施し、全体職員会議の報告や研修を行いました。職員面談を随時行い、共通理解を深め、連携して保育を行えるようにしました。

#### 5. 小学校や地域との連携

- ・全年齢を通しての系統的な保育実践や保護者との面談、関係機関との連携により、子ども自身や保護者が、就学への期待と見通しを持てるように取り組みました。
- ・2019年度卒園児22名が就学する小学校11校へ、幼・保・小連絡会や「保育所児童保育要録」の送付などを通して、子どもの育ちの連続性がつくれるよう連携しました。
- ・必要に応じて、児童クラブ利用予定について児童館との引き継ぎを行いました。
- ・小・中学校や児童館、地域の各種団体の活動や行事などに協力し、地域との関係づくりに努めました。
- ・園前の道路の路上駐車が課題になっています。周辺道路環境の変化により通行量が増えたことや、保護者の送迎が18時前後に集中することが原因です。園内掲示や路上表示、誘導職員の配置等で対応し、地域の方に理解いただけるよう努力しました。
- ・「あそぼう会」は年10回開催し3~6家庭の参加でした。園見学は年9回実施し7~12家庭の参加がありました。見学等による印象が入所申込につながるケースも多く、園の方針や特色を理解したうえでの入園者を増やす意味で重要な取り組みであることが分かりました。

#### 6. 2019年度の総括

- ・園長が交代し、新たな管理部体制での1年目の年でした。今までやってきたことを土台に、管理部やリーダー職員の力を生かし、経験や立場に応じた役割分担と、集団的な討議による運営を意識して取り組みました。職員の変化も少なかったことと、何よりも職員一人ひとりの奮闘が見られ、事故や感染症流行も少なく、全体的に安定した保育を行うことができました。次年度は新入職員3名を迎えます。気持ちを引き締めて、互いに学び合い

高め合い、より良い保育に取り組んでいきます。

- 3歳児クラスの保育については、保育室が2階にあるという施設構造上の問題と24名というクラスの児童数の問題により、保育の難しさが顕著になっています。職員会議等で検討し、次年度は2歳児クラスを22名にすることにしました。また、途中入所ではなく0歳児から受け入れることによる保育の安定についても討議し、今後0歳児クラスでの受け入れ人数を増やしていく方針を持ちました。そのため「遊ぼう会」や見学会などの取り組みを通して、園の方針を理解しての入園希望者を増やしていきたいと思います。
- 保護者との連携については、特に、園の方針や保育園での様子をわかりやすく伝える工夫をしてきました。長い歴史の中での実践と研究、職員達の学習努力をふまえた「なぜそうするのか」という根拠を伝えることで、理解と信頼を得られるのではないかと思います。2020年度は、園の保育理念や方針などの記述を充実させ、重要事項説明書の見直しを行いました。少ない配置基準の中で安全を守ることなども考えると、送迎時にゆっくりお話しすることも困難になっています。今後も“伝わるように伝える”ための研修や実践に取り組み、「今日の保育」やお便りなどの掲示物や配布物、懇談会や個人面談などをさらに充実させ、活用していきます。
- 職場環境の向上や職員集団づくりについては、互いに尊重し合う関係づくりや十分なコミュニケーションを意識してきました。職員の協力により有給休暇5日取得を達成し、事務時間確保では、職員が自主的に事務時間を生み出す工夫が見られました。今後は、事務の効率化の研修についても進めていきます。今年度、十分に援助できなかった部分もあるので、職員一人ひとりが、自分の成長を感じ健康でいきいきと働き続けられるような職場環境づくりをさらに継続していきます。
- 社会保障運動の取り組みについては、今年度は全職での「運動意義と自分達の生活を結び付ける」学習を中心に取り組みました。保育の街頭署名への参加や、保護者への壁新聞や玄関での署名アピール、毎月のレインボーTシャツ着用で平和アピールなどができました。来年は財政活動や保育以外の署名や活動へも積極的に取り組んでいきます。

## 柳生もりの子保育園

### 1、事業規模

#### (1) 入所児童

今年度は2018年度末の急な退園や入園辞退もあり、115名で出発しました。年間の入所児童は平均118名の入所数を受け入れました。3歳未満児クラスの退園は待機者もあり、すぐに補充できますが、3歳以上児の補充は希望者もなく、なかなか補充できず120名定員を推移することが出来ませんでした。

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
1歳	18	18	18	18	18	17	18	18	18	18	18	18	215
2歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
3歳	20	20	21	21	21	21	21	22	22	22	22	22	255
4歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
5歳	22	22	22	23	23	23	23	23	23	23	23	23	273
合計	116	116	117	118	118	117	118	119	119	119	119	119	1415

#### (2) 職員体制

今年度も園長、主任1名、副主任保育士2名と保育園運営について協議し、各クラスの状況を掴み、8クラスを運営しました。給食室は調理師や調理員の病休や退職に伴い、新規の調理員を4名採用し午前中の体制を強化して給食業務に取り組みました。保育の指導体制は、保育業務全体の指導を主任が統括し、副主任2名と専門リーダーと協力しながら管理部全体で指導を行いました。未満児パートと幼児組パートに保育リーダーを配置し、また、キャリアアップ研修を受けた職員が障害児保育やクラスで気になる子どもの保育の検討を行うケース会議を行い、クラス運営の手助けを行いました。5年目以下の職員が多く、中堅職員が運営を意識して各パート間で協力し、クラス運営を行いました。

	保育士	栄養士	調理員	看護師	園長	事務・用務	合計
正規職員	17	1			1		19
臨時職員	3						3
パート 7.5	1						1
パート 7h			1				1
パート 6h	1					1	2
パート 5h			1				1
パート 4h	4		3	1			8



パート 3h	1					2	3
合計	27	1	5	1	1	3	38

上記の他に嘱託内科医師 1 名、歯科医師 1 名

3 月 1 日在籍

### (3) 保育事業内容

\* 基本的運営は入所児童数平均 1 1 8 名の委託費と各種補助金の申請を行ないました。実績に基づき精算し給付を受けて運営を行いました。

\* 標準時間の延長保育は 2 8 世帯あり、平均利用者は 8 名と昨年度と同じ水準での利用状況でした。短時間の延長保育利用も 2 世帯ありましたが、保護者の勤務時間の変更に伴い仙台市に申請し、標準認定に変更の手続きを行い保育を受けています。多子減免、東日本大震災減免、非課税世帯減免での利用料は仙台市が補填しています。その他の世帯には延長保育利用料を毎月徴収を行いました。

\* 保育料の滞納者なく、保育園から請求することはありませんでした。

\* 保護者の希望、衛生管理の観点、近隣の保育園の処理状況もあり、今年度から紙おむつの処理料（月：300 円、0～2 歳児クラス対象）の徴収を始めました。多数の家庭で利用となり処理料を徴収しました。しかし、処理を希望しない家庭もありましたので引き続き自宅への持ち帰りを行ってもらいました。

\* 2019 年 10 月から幼児教育の無償化に伴い、3 歳以上児の副食費の徴収が始まり、仙台市と同額の月 4,500 円と主食費 1,000 円を毎月徴収しました。また、仙台市より所得割による免除に該当する家庭が 3 歳以上児 69 名中 20 名あり、仙台市が副食費分を補填しました。

\* 特別保育事業は、乳児保育 12 名障害児保育 4 名は年間通して在籍し保育を行いました。

\* 2018 年 9 月に結んだ 3 歳未満児保育施設との連携に関する協定で連携協定に基づく卒園児の受け入れは今年度ありませんでした。ただし、卒園後の受け皿の協定により年間通じて助成金が仙台市より入金されました。

### (4) 設備・環境・保育材料

\* 給食室の機材の経年劣化が進み、食洗器や電解水機を購入し交換しました。また合同保育の保育室の劣化もあり 1 部屋、床のコーティング工事を行いました。その他必要な保育教材を購入し、日々の施設内の修理と整備を行いました。

### (5) 安全管理

\* 避難訓練計画に基づき、火災訓練、地震訓練、水害想定訓練、不審者侵入対応訓練を計画し毎月 1～2 回避難訓練を行いました。回数を重ねるたび、不安になる子どもも少なく訓練を行うことが出来ました。

\* 安全管理マニュアルに基づいて、OJT 研修を行うとともに、毎月の職員会議では事故報告、ヒヤリハット報告を行い、事故防止の対応を行いました。

\* 通院する事故は年間 14 件ありました。10 件は歯や口をぶつけて歯科に受診しました。その他は裂傷や足のひびで数回通院し経過を観察し完治しました。転んでも手が出るものが少なく、ダイレクトに転び、歯や口の怪我につながるものが多く、念のための受診も含

め今年度は歯科への受診が多くなりました。子どもの体づくりの視点も持った保育を意識していくことが大事に思いました。

## 2. 保育内容

### \*保護者の状況

保護者の経済的には114世帯中、非課税世帯は11世帯、生活保護世帯はいませんでした。2019年10月の副食費免除対象者の3歳以上児は、非課税世帯も含めて20世帯ありました。副食費が減免の世帯では、生活の大変さがあるのではないかと推測されます。また、今年は保護者のメンタル面で不安定さがある保護者への支援も必要で、より丁寧な対応が必要な年でした。子どもの健全な育ちと保護者支援のためにも保育園は大きな役割があると感じ、保護者が保育園に子どもを預けたいと感じられるように子どもが「保育園好き、行きたい」と思えるような保育を行っていくことが大切であると感じています。そして、子どもをめぐる各関係機関（区役所、児童相談所等）との連携も必要でした。保護者が預けたいと思えるよう丁寧な声掛けを心掛け、保護者の育児の大変さにも耳を傾けつつ子どもの自我の育ちの大事さを丁寧に話すことの必要さも大きく感じた一年でした。このことは在園しているどの家庭にも言えることで、幼児期の子どもの育ちに自我の育ちの大切さを伝えることの重要性も感じています。保護者は子どもをかわいいと思い、だからこそちゃんと育てなきゃと思っている様子が見られました。その思いも受け入れつつ、子どもの育ちを少しでもおおらかに感じられるように保育園に在園している間を保護者とやり取りしながら「子育て・共育て」子育て観を感じられるようにしていきたいと感じています。

### \*保護者アンケートを踏まえて

今年度は行事ごとのアンケート（遠足、夏祭り、クリスマス子ども会）と1月に運営アンケートの計4回実施しました。行事はおおむね良い評価を頂いています。運営に関しては、もりの子新聞やクラスだよりで子どもの育ちあう関係のなかで子どもの成長を感じることが出来るよう知らせても、読んでいないことや伝わりにくさを感じると回答がありました。保護者に伝えることの難しさと伝える方法の工夫の必要性を感じています。一方、保健だよりや給食だよりはすぐに実践できて効果も見えやすい面に評価を頂いた傾向が見受けられました。もちろん子育てのヒントになることも大事であると思いますが、保育園で大事にしている保育観、子ども観、仲間と育ちあう姿が分かるような伝え方の工夫も考えなくてはならないと感じました。懇談会の工夫も必要で、写真やビデオ等の見える形での保育の様子がやはり伝わりやすいので、撮影は大変ですが、保護者にとってより伝わる努力がひいては子ども観を一致できることにつながると考え、今後の課題としたいと思います。

### \*苦情について

今年度は7件ありました。幼児組でトラブルでの対応の仕方や子ども同士の関わり方への心配等が4件、事故防止の対応と再発防止について2件、保護者への声の掛け方への不満が1件ありました。職員間で保育を見直し保護者に丁寧に伝え、考えあえる関係に慣れるように努力したいと思います。

**\*保健活動**

- ・2019年度は12月頃から感染症予防に日々の手洗い指導を行い、感染症予防に努めてきました。発熱・風邪等の病気はありますが、日々の手洗いが功を奏したのか大きな病気の流行もありませんでした。また1月～3月はインフルエンザの流行もなく過ごすことが出来ました。
- ・保健業務は看護師が年間通して投薬管理、怪我や体調不良の対応を行いました。保健計画通りの日程ではできませんでしたが、手洗いや歯磨き指導を幼児組で行いました。ほけん便りも年6号発行し病気予防などをお知らせしました。
- ・与薬数（内服薬、塗り薬、点眼薬）

クラス	つぼみ	つくし	どんぐり	こりす	みつばち	おひさま	かわ	やま
与薬数	138	422	190	217	249	337	287	186

年間合計は2026で昨年度より少なくなっています。

**\*保育園の自己評価**

保育について年2回、職員間で保育実践を検討し方針を立てて保育の振り返りを行う研修を行いました。

0歳児：一人一人の子どもの姿よく観察し、心地いい過ごし方ができるように丁寧にお世話するように努めました。生活リズムを整える努力を保護者に相談しながら進め、わらべうたなどを通してゆったりした関わりのなかで遊びを繰り返し、保育者との愛着関係を築いてきました。

1・2歳児：子どもと保育士、子どもと子どもの関わりを通して遊びや生活を繰り返し行い、友達と遊び合う楽しさが感じられるように保育を行いました。自己主張の時期に、子どもの思いをまずは保育者が受けとめ、生活に向かう時間をなるべくゆったり設定し子どもの気持ちが動いて向かえる働きかけを丁寧に行いました。

3歳児：幼児組の大きな集団生活になり3・4・5歳児合同で過ごすなかで生活に慣れていきました。クラスでは生活を大人と一緒にしながら自分で身支度できることを重ねてきました。簡単なルールのある鬼ごっこやごっこ遊びを楽しみました。

4歳児：小グループで相談し、自分の意見を出し相手の思いも聞きながら折り合いをつけて決める関わりを丁寧に行事ごとに行いました。

5歳児：友達と生活や活動を相談し、やりたい活動や遊びのルールを子どもの意見やアイデアも加えて仲間と一緒に取り組んできました。

給食：安心・安全の食材で衛生管理に努めながら、和食を中心にした手作りの給食づくりを行いました。

**3、職員の研修と評価**

\*日々の研修は主任が計画し、講師は中堅保育士が行い、新入職員や臨時職員を中心にOJT研修を行いました。中堅職員が講師を務める中で、改めて学習し講師を行い、意識して新入職員の育成に関わることができました。

\*キャリアパスの研修、仙台市研修、宮城保育協会の研修の参加と自主学習として保問研や

宮城合研等に参加し研修を重ねました。

- \* キャリアパス研修を受けた職員がリーダーになり、ケース会議で障害児保育や気になる子どもの保育の検討を行い、職員の次の保育のヒントになるような会議を数回行うことになりました。中堅職員自ら発案し職員に働きかけて会議を行うことができ、今後の職員育成につながる良いきっかけになりました。
- \* パート保育士の会議を 1 回しか行うことができず反省です。パート職員の疑問に答え、同じ保育観で保育することが出来るよう話し合う必要性の大きさを感じているので、計画的に行えるよう工夫したいと思います。
- \* 年 2 回の保育総括会議を行い、クラスごとに掴んだことや大切にしたいことをまとめました。クラス報告の後にグループ討議も行いました。また、年齢ごとの場面記録検討を行い自分の保育を振りかえるきっかけになり、また職員同士で自分が保育をしていたらと想像し話し合う少人数のグループ討議はどの職員も発言して有効でした。

#### 4、小学校や地域との連携

- \* 各小学校の幼保小連絡会に出席し引継ぎを行うとともに児童要録を 3 月中旬に送付しました。就学先の小学校や児童館からの保育園見学の申し出もあり引継ぎを行いました。
- \* 年長児が就学前に柳生小学校の 1 年生の授業見学を行いました。
- \* 園長が 2 年目の柳生小学校評議員を務め委員会に参加し、小学校と情報交換を行いました。

#### \* あそぼう会（地域の未就学児のお子さんを対象に毎月開催）参加状況

4月 0名	5月 0名	6月 0名	7月 0名	8月 0名	9月 0名
10月 0名	11月 0名	12月 0名	1月 0名	2月 1名	3月 0名

- ・今年度は 2 月のわらべうたのみ参加になりました。その他の参加はなく、今後近隣の市民センターやのびすく等への宣伝等を広くお知らせすることが必要と振り返りました。
- ・あそぼう会の企画・運営は、主に主任が対応していますが、主任は日々の保育園運営の業務が重いので、今後は職員で役割分担を検討していきたいと思います。

#### 5、今年度の重点事項

- \* 保育は主任が各クラスを見回しながら会議を行い、また、副主任と専門リーダーがそれぞれ各年齢パートのクラス運営を意識し、職員の保育の相談やフォロー、アドバイスをしながら 5 年目以下の職員育成に気を配って保育を行ってきました。
- \* 事前に職員間で話し合いを持ち協力をもらうことで、子育てしながら働ける環境を整え 1 年間勤務時間を考慮し、その分のシフトをその他の職員が担うことで、シフト勤務の運営を行うことが出来ました。

## 古川ももの木保育園

2019年度は定員90名に対して101名でスタートしました。今年度は0・1歳児の入退園が多くそのたびに大崎市とのやり取りをしながら月初めの園児の調整をはかりました。消費税増額に伴い仙台圏に家を建てたり、勤務地の近くに転園したりとその家庭の背景もそれぞれありました。

### 1.事業規模

#### (1) 入所児数

定員90名に対し4月は101名で出発し8クラスで行いました

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
1歳	17	17	16	16	16	17	17	17	17	17	17	17	201
2歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	17	215
3歳	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	228
4歳	18	18	18	18	18	18	18	18	17	18	18	18	215
5歳	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204
合計	101	101	100	100	100	101	101	101	100	100	100	99	1207

#### (2) 職員体制

正規職員は、保育士17名、栄養士1名、事務員1名、園長の20名、臨時保育士1名、パート職員は保育士8名・看護師1名・調理員5名・用務1名の計15名、総数36名体制で行いました。他に嘱託医として内科医師・歯科医師各1名となりました。

	保育士	栄養士	調理員	看護師	園長	事務.用務	合計
正規職員	17	1			1	1	20
臨時・契約職員	1						1
パート 6.0H	1		3				4
パート 5.0H						2	2
パート 4.0H	4(延長1)		1	1			6
パート 3.0H	1						1
パート 2.5H	1		1				2
合計	25	1	5	1	1	3	36

### (3) 保育事業内容

- ① 基本的運営費は、公定価格に基づいた委託費収入と大崎市補助金収入、保護者からの利用料収入（延長保育利用料・3歳以上児主・副食費代（10月より））でした。
- ② 特別保育事業は、延長保育・標準時間（1時間延長）短時間（2時間）、地域活動事業（世代間交流・遊ぼう会等）を実施しました。

### (4) 職員の業務分担と役割

- ① 園長は主任保育士と協力し、総括的指揮をとりました。

主任保育士と副主任は協力して、保育内容等保育全般を把握し職員間の関係及び保護者との関係が円滑にすすむよう努めました。日々の業務管理は主任保育士が行い、クラスリーダーは、子どもの発達や姿に合わせた文献を準備して学習を進めることができました。クラス運営をしていく為に定期的にクラス会議等を実施し、職員間の連携、保育技術の向上に努め、より良い保育が出来るようにしてきました。

職員体制が厳しい月もありましたが、職員の協力により円滑に保育をすすめることができました。
- ② 食育については、栄養士を中心に、地産食材をいかした献立、伝統的な献立を取り入れ、安全・安心な給食に取り組みました。

保育士と連携して子どもたちが作りたい思いに寄り添いながらクッキングをすすめてきました。次年度はより計画的にすすめていきたいです。
- ③ 保健業務については、看護師は園長・主任と連携しながら園児の健康管理・保護者支援と体調不良児、アレルギー児の個別対応などを行いました。
- ④ 経理・総務事業を事務員と管理部が協力して日常業務に支障のないように努めることができました。
- ⑤ 保育室・園庭・遊具等の安全や環境整備を、用務職員の協力も得て整えました。また、子どもの安全確保のためフェンス周りの網を二重にしました

### (5) 設備・環境・保育材料について

- ① 昨年度の散歩車に引き続き乳児用に2人乗り避難車を購入しました。
- ② 16年目を迎えるにあたり、4歳児用椅子の入れかえを計画的に進め、園内の安全対策と環境整備に努めました。
- ③ 園庭や散歩コース周辺の再度見直しを行い、行政に訴えて散歩コースの歩行者用信号機の青信号の時間を、長くしてもらいました。職員会議でグループ討議を行い、危険個所の確認を行ったことで一人ひとりの意識が変わりました。

・散歩先の安全確認を必ず行うことを再確認し、安全に遊べるように配慮してきました。

## 2. 保育内容

### (1) 保育目標と主な行事

- ① 児童憲章及び児童福祉法の精神のもと、子どもの最善の利益を守り、子どもたちの心身の健やかな育ちを保障するよう保育指針をもとに計画を立ててきました。各年齢にそった

活動を通して、しっかりした自我を持ち仲間と共に育ち合い、豊かな知的興味と感性を育てる保育を大切にしてきました。

### ③ 行事予定

月	主な行事	月	主な行事
4月	入園式・父母懇談会・内科健診	10月	運動会・総合避難訓練・内科健診
5月	子どもの日祭り・親子遠足	11月	収穫祭・保育参加・
6月	総合避難訓練・歯科検診	12月	クリスマス会・餅つき会
7月	夏まつり	1月	お店やさんごっこ・歯科検診・文化鑑賞 (ほうねん座)・父母懇談会
8月	保育参加	2月	節分豆まき会・父母懇談会・育児講座
9月	5歳児お泊り会・保育参加・ 秋の遠足(4歳児)	3月	ひな祭り会・卒園式・修了・進級式

#### 月例行事・誕生会・地域交流活動「あそぼう会」・避難訓練

行事は計画通り行うことができました。が、10月の大雨の影響で運動会の内容を多少変更し短縮しました。年度末の卒園式は新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため規模を縮小して行いました。

#### (2) 保育方針

- ① 一人ひとりが健康で安全・安心に過ごせるように、日々の健康状態を観察し年齢に応じた適切な養護と衛生管理に努めました。健康管理として、年2回の内科健診と歯科検診を行いました。感染症対策として、日々の手洗い・うがい・保育室の換気・加湿(冬期)・消毒を行うなど年間を通し衛生管理に取り組んできました。また、乳児は換気の時間を決めて徹底して行いました。幼児も午睡明けには必ず行い、空気の入替えをしてきました。
- ② 乳児部では、毎月のクラス会議で発達に合った文献を学習し、子どもたちの姿に照らし合わせながら保育をしてきました。また、幼児部では幼児部会議の中で子ども一人ひとりの様子を話し合ってきました。
- ③ 各部会で共通理解をし内容を深めつつ、各部会やクラス会議で発達に沿った活動を話し合い、日々の活動や遊びにいかしてきました。夏祭りでは、父母会との共催をやめ園主催での行事に変え、中堅職員の力を借り内容を検討しました。取り組みは職員みんなでアイデアを出し合い取り組みました。
- ④ 保護者同士が繋がれるよう、クラス懇談会や育児講座、保育参加、親子参加行事を意識してきましたが、遠足では親子で遊ぶ時間を保障したため、クラスの繋がりを持たずに終わってしまったのが反省です。来年度はクラスごとの活動をしっかり計画し保護者同士が繋がることをねらいにしていきます。
- ④ 栽培活動については、土づくりから職員みんなで協力し行い、計画的にすすめてきました。クッキングは収穫した野菜で子どもたちの食べたいメニューを保育士と栄養士が連携しながら行いました。また、そのクラスだけではなく他のクラスや職員も巻き

込みながら園全体で栽培活動や食育活動に触れることができました。

### (3) 安全管理

- ① 早い段階でマニュアルの確認をし安全管理について全職員の理解に努めました。
- ② 災害対策として、消防署の協力のもと、毎月の避難訓練と年1回の不審者対策訓練、水害時の訓練、年2回の総合避難訓練を、計画通りに行いました。
- ③ 不審者対策のため、散歩計画書を提出し警報ブザーや携帯電話を持ち事務室に散歩先人数を報告してから散歩に行く等安全に配慮をしました。

### 3. 保護者との連携・支援

- ① 職員間の日々の伝え合いを大切にしながら、保護者の置かれている状況の共通理解に努め送迎時には、保護者が安心して保育園を利用できるように積極的に話をするように心がけました。また、保護者支援が必要な家庭があり子育て支援課の相談員と連携をとり情報を共有しながら対応にあたってきました。
- ② 年2回の父母懇談会を実施し、1回目はクラスの年間計画や保育内容を保護者と共に共通理解し、2回目は1年間の成長した子どもの姿をみんなで喜び合う場としました。また例年実施している4, 5歳児の親子クッキングは、今年度もしっかりとねらいを持ち取り組み、親子・保護者同士の関係を深めることができました。

また、父母懇談会では、その時の父母の悩みやクラスの子どもたちの状況に合わせた学習を取り入れ、保護者の思いに寄り添うことで子育てに前向きになっ、他の保護者と同じ思いを共有することで安心する姿がみられました。

- ③ 保護者に対し、わかりやすく知識を伝えられるようみんなで話し合いました。
- ④ 育児講座を年1回行い就学に向けて保護者アンケートをとりそれをもとに保護者と学び合いました。

### 4. 職員の研修と評価

- ① 法人理念に基づいた保育や、子どもの人権を大切にする保育とはどういう事かを、職員全体で学びました。各部会で場面記録検討を位置づけ、職員一人一人が子どもを捉え保育にいかしてきました。
- ② 子どもの主体性を大切にするために各年齢ごとの発達の特徴を学び子どもの理解を確かなものにしていく研修を行いました。次年度はさらに深めていきたいと思えます。
- ③ キャリアパスに従い法人・園外の研修を重視し一人でも多くの職員が研修に参加し、資質向上に努め、計画的にすすめました。
- ④ 自己評価シートを活用し、職員一人ひとりが自分の保育を振り返り、資質向上に努めていけるように計画的に職員面談を行いました。また、主任会議で伝えることで共通理解をしました。
- ⑤ 園全体の仕事の理解と職員集団の中での不安や悩みを解消して安心して働けるようにOJTの研修を行いました。
- ⑥ 保育制度、社会保障などの情勢について積極的に学び、社保委員を中心に学習を位置づ



け運動しました。

## 5. 小学校や地域との連携

- ① 園・地域の行事や、5歳児は老人施設との交流などを通して地域の皆さんと関係を密にしてきました。
- ② 保・幼・小連絡会や要録の伝え合いに積極的に参加し、より良い小学校生活がスタートできるように連携をとりました。
- ③ 地域の交流の場として月1回の遊ぼう会や夏祭りには近隣の方をお誘いして地域交流ができるようにしました。年初めに行ったほうねん座公演に地域の方が参加してくれとても喜んでいました。
- ④ 保育実習生の受け入れや中高生の職場体験・ボランティアの受け入れなどを積極的に行い保育園の役割を伝えました。

## 6. 今年度の重点事項

- ① 学習係り（中堅職員）を中心に「荒馬」を今年度も引き続き全職員で深め、若い職員も積極的に参加し、全職員で取り組んできました。
- ② 職員間の伝えあいを大切にしながら子どもたちが安全・安心に過ごせるようにしました。が、計画的に「アクシデント報告」を活用し全職員で検討し深めるまではできませんでした。
- ③ 場面記録の検討は副主任が中心となりすすめ、職員一人ひとりが発言できるようにし、内容を深められるようにしました。その子の気持ちがどこにあるか正解を求めるのではなく、色々な方向から考えることで一人ひとりの視点が深まりました。
- ④ どの職員も自分の意見を持ち、言い合えるような職員同士の関係性や雰囲気作りを、管理部と共に職員一人ひとりが取り組み、生き生きと働き続けられるような職場作りを目指しました。

## 7. 保健活動から

今年度はインフルエンザや、手足口病、溶連菌感染症などさまざまな感染症がでましたが、職員間で感染症の理解を深めることで、どの感染症も大きく流行することはありませんでした。

ケガでの病院受診は8件ありました。転倒での思いがけないケガもあり、職員間での情報を共有し、事故防止を再確認しました。

食物アレルギーやてんかんの疑いがあり個別に対応が必要とされる子は、症状が出ることなく過ごすことができました。保護者と対応の確認を行い、職員全員が周知することで、保護者の不安を軽減し、職員は安心して保育に専念することができました。

年2回の内科健診、歯科検診は全員終了しています。3歳児を対象に歯みがき指導を行い、歯みがきの習慣、意識の向上につながりました。

全国でコロナウイルス感染症が流行しています。コロナについての情報収集し、職員だけでなく、保護者の協力を得て、感染予防対策を強化しています。終息まで、気を緩めず感染

予防をしていきます。

2019年度 投薬依頼数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
依頼数	111	117	150	146	77	126	197	155	134	145	119	120

2019年度 アクシデント件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	9	3	4	6	4	4	0	6	3	4	6	8

8. 給食室より

《配慮食》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
	4	0	0	2	0	0	0	0	4	0	0	0	10

今年度は蕁麻疹発症の園児が4月と12月に発生、原因が特定されないため発症リスクのある卵や牛乳の除去を行なった為配慮食とし提供した。

《アレルギー除去食》

年齢	アレルギー除去食内容
0歳児(3名)	卵全般、卵そのもの
1歳児(3名)	卵そのもの、とろろいも
2歳児(2名)	卵全般、乳全般、ナッツ類、すいか、トマト全般
3歳児(1名)	魚そのもの、そば
5歳児(2名)	卵全般、乳全般、ナッツ類、えび

《主な食育活動》

4月	菜園活動計画 畑作り	10月	魚の解体ショー、クッキング バイキング給食、ラーメン屋さん 青空給食
5月	菜園活動	11月	収穫祭、クッキング、交流給食、地 場産給食、野菜に触れる、みそ作り
6月	野菜の皮むき.箸指導、食事マナ ー	12月	もちつき会、バイキング給食、トマ トケーキ作り
7月	野菜収穫、クッキング	1月	コロケ作り、食具マナー指導
8月	食具指導	2月	セレクトパン、クッキング、食具マ ナー指導
9月	ナスクッキング トマトクッキング お泊まりクッキング	3月	3歳児トマトクッキング、4.5歳児 親子クッキング、バイキング給食、の り巻づくり、お別れクッキング

今年度も異年齢交流やバイキング給食を行いました。いつもと違う環境で戸惑う姿が見られたものの大きい子が小さい子を気づかいながらゼリーを作ったり、配膳のお手伝いをしながら楽しく取り組め良い経験になったように思います。

昨年に引き続き食事指導もスポット的に実施し、食育活動、食育指導の重要性が担任はもちろん園児・保護者の方々にも認識されてきました。幼児クラスの菜園活動ではJ A古川さんからタネや苗の提供をいただき、お米納入者の方に指導をいただきながら実施することができました。また食材納入業者魚屋の協力で大きな鮭を子どもたちの目の前でさばく“魚の解体ショー”を今年も実施しました。大きな魚に驚きながらも魚にくぎ付けになっていました。その後調理員が子どもたちの前でさばいた魚を使い「ちゃんちゃん焼き」を作り食べました。11月には地場産の食材を提供していただき「地場産給食」、12月には地域の方のお手伝いでもちつき会、2月には4、5歳児親子クッキングを行いました。4歳児は自分たちで豆から育てた大豆で味噌作りを行いその味噌でクッキングを行いました。園内だけでなく地域と連携した食育活動を今後も大事にして行きたいと思います。ただ、2月中旬から感染症対策のため大人数でのクッキングや、食材そのものに触れるなどの活動を自粛したこともあり例年とは違い寂しさを感じましたがクラスごと工夫しクッキング活動を行いました。

離乳食は毎年悩みながらの実施となっている。今年度は咀嚼、吸い食べといった課題から発達にあった食事提供ができず段階を下げての提供などを行った。離乳食に対する保護者と保育園側の考え方の違いなど家庭とのやり取りの重要性を改めて感じました。また、提供するだけでなく給食従事者が子ども個々の食べている様子や嗜好、食べ方などを見て関わり担任保育士、保護者と話共通理解をしながら進めていきました。また、ここ数年法人間で問題点情報を共有しともに考え進める事ができました。

今年度も「より安心・安全な食事提供」を常日頃から心がけ地場産の食材をなるべく取り入れながら各業者へ食材の安全確認（放射能測定結果の取り寄せ・出荷産地確認・県、市ホームページの確認など）を定期的に行い安全な食材を納入してもらえるようにしました。継続し定期的に食材の安全確認を行い安心安全な給食を提供していきたいと思います。また、感染症が出た時の対応などを園全体で考え進めていきたいと思います。

《その他の活動として》

\* 父母への働きかけとして：離乳食試食(父母懇談会にて)・簡単朝食レシピ配布・ホームページにて給食紹介、レシピの掲載など。

## 9、補助金による事業

### ①延長保育事業

延長保育登録数は在園児の4割強が登録しました。7時ギリギリのお迎えや、過ぎてのお迎えの家庭は固定化し仕事の厳しさが伺えます。延長保育の遊びの設定や掃除等遅番職員同士、連携をとりながら行うことができました。

<2019年度の利用状況> 申し込み利用者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
6:01 時点の平均数	16	19	18	18	14	19	22	19	20	22	23	21
6:31 時点の平均数	9	10	11	10	7	9	10	9	10	11	12	11
4:01 時点の平均数	6	12	9	8	7	8	4	5	5	4	3	4

② 地域交流事業

地域交流事業として「夏祭り」を行い地域の方もお誘いして在園児と共に楽しいひと時を過ごしました。保育園主催行事としたので内容も変え親子で過ごす時間をたっぷりと取ることにしました。また、世代間事業として「お店屋さんごっこ」を今年度も1月に行いました。祖父母の方が手をお孫さんに引かれながら嬉しそうにお買い物をする姿は、微笑ましく感じました。遊ぼう会は地域の親子が参加してくれました。年5回計画的に行い講師の方をお呼びしてわらべ歌を3回、季節ならではの遊びを保育士が中心となり2回行い、家庭ではなかなか出来ない遊びの提供に喜んでいる感想が聞かれました。

## 下馬みどり保育園

2019年度、下馬みどり保育園の保育園経営を以下のように取り組みました。

### 1 事業規模

#### (1) 入所児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
1歳	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
2歳	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
3歳	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
4歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
5歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
合計	64	65	65	65	65	65	65	65	65	65	65	65

3歳が3月に、保護者の転勤により当初12名だったのが11名のスタートとなりました。

#### (2) 職員体制

	園長	保育士	栄養士	調理員	看護師	事務	保育補助用務員	合計
正規職員	1	11	1					13
派遣		2						2
パート6H		1		1	1	1		4
パート5H							1	1
パート4H		1						1
パート3H		1					1	2
不定期				1				1
合計	1	16	1	2	1	1	2	24

\*嘱託医として坂総合病院の小児科医とこゝろ歯科医に委託しました。

※正規職員8月末に産休に入りました。

#### 雇用形態内訳 (人)

正規	派遣	パート	嘱託医師	合計
13	2	9	2	26

・6月からメンタルヘルスで休んでいた保育士が復職し、1年間働き続けることができました。

#### (3) 保育事業内容

- ① 基本的運営は公定価格に基づいた給付金と多賀城市補助金・利用料収入から成り立ちました。利用料は延長保育料金、病後児保育料金、給食費(主食代・副食費)になりました。

た。委託費として95,148,000円が給付されました。

- ② 特別保育事業の延長保育事業として1,505,000円給付されました。  
今年度も毎月18時31分以降6人以上実績あったのでクリアできました。
- ③ 2019年度の病後児保育事業は前年度と比較すると増えたものの、加算分のところで50人以上にならず、実績が4,582,000円でした。今年度は新しく開園した二園に訪問し情報交換をしてきました。そのなかで病後児というより、病児保育の要求などもありました。今後加算分をどう増やすか、市内の保育園、幼稚園、開業医などに訪問活動が課題です。ほけんだよりを認可、小規模保育園など23園に月配布活動は継続できました。

#### (4) 職員の業務分担と役割

①クラス担当保育士は以下の様に実施してきました。

クラス名	年齢	児童数	保育士数	備考
ひよこ	0	6	2	
つばめ	1・2	12	3	2歳児ダウン児1人含む
はと	2	12	2	
ひばり	3	12	1・5	3歳児12名
はくちょう	4・5	24	2	4歳児12名 5歳児12名
合計		65	10.5	

②その他の職員の業務は以下の様に実施してきました。

職種	人数	業務内容
園長	1	園全般の管理運営・統括・会計責任者
主任保育士	1	保育全般の把握及び指導、業務管理・園長補佐
フリー保育士	1	休暇等の代替え
障害児担当保育士	1	障害児加配
延長保育士	2	早番担当 遅番担当
看護師	1	病後児保育・児童の健康管理・保健活動
栄養士	1	給食全般の業務(献立・調理・アレルギー児食・食育)
調理員	1	給食調理・給食室清掃
事務員	1	事務全般(会計出納・その他の事務)
用務員	1	環境整備・清掃
不定期職員(調理員)	1	栄養士又は調理員が不在時に勤務
合計	12	

#### (5) 設備・環境

- ① 発達に応じた遊具や玩具、備品の購入を計画的にすすめ、よりよい環境づくりに努めていきました。今年度は中庭のコンクリートをコーティングしたことにより、安全を確保しました。予算にあわせた保育材料を整えてきました。

② 定期的に行っている修繕・保守を実施し、園児の安全対策と環境整備を引き続き行いました。

③ 今年度はLEDの交換もできました。

## 2. 保育内容

### (1) 保育目標と主な行事

① 新保育指針改定に伴い2年が経過しましたが、学習を強めてきました。

② 児童憲章と児童福祉法、保育指針に基づき子どもの健やかな育ちを保障するよう取り組みました。どの子どもも安心して自我をだせ、仲間に受け入れられることの喜びを感じ、ともに育っていく保育をつくってきました。「食べる・寝る・遊ぶ」などの基本的生活を保護者と共に大事にしてきました。がまだ課題はあります。保護者の育ちと背景が大変影響しているのがうかがわれます

③ 法人理念に添い、子どもの人権を尊重し、人とのかかわり大事にしながらを保育してきました。

### 年間行事予定

月	主な行事	月	主な行事
4月	入園式	10月	運動会・内科検診・歯科検診 サンマパーティー・交流保育
5月	遠足・内科検診・歯科検診 交流保育	11月	焼き芋会 ・交流保育 子ども作品展 ほうねん座鑑賞
6月	交通安全教室 ・交流保育	12月	クリスマス会 ・餅つき
7月	なつまつり	1月	お正月遊び ・育児講座
8月	おとまり保育	2月	豆まき ・交通安全教室
9月	交通安全教室 保育参観・祖父母お楽しみ会	3月	ひな祭り会 卒園式・修了式

\*上記の他、誕生日会と避難訓練は毎月開催しました。今年度の後半3月はコロナ新型肺炎感染予防として、鶴ヶ谷保育所との交流保育は中止としました、密閉、密室、密集などからひなまつり、誕生会の行事等は各クラス毎に実施してきました。卒園式も従来の形から人数制限、中身も省略しながらもお祝いしてきました。

### (2) 保健活動

#### <与薬状況>

クラス名	ひよこ 0歳	つばめ 1歳	ほと 2歳	ひばり 3歳	はくちょう 4・5歳	合計
4月	7	60	27	48	75	217
5月	18	47	23	44	61	193
6月	26	38	13	53	43	173

7月	15	62	11	38	33	159
8月	9	29	4	34	29	105
9月	6	28	3	34	49	120
10月	13	32	29	50	79	203
11月	21	62	29	43	53	208
12月	24	60	20	53	29	186
1月	16	34	7	46	24	126
2月	21	46	9	41	28	145
3月	28	27	4	53	35	147
合計	204	525	179	536	538	1,982

誤薬はありませんでしたが、処方数が多くなるべく朝夕の2回に処方をお願いしてきました。

〈感染状況〉

インフルエンザ	突発性発疹	手足口病	溶連菌感染症	嘔吐下痢症	ヘルパンギーナ	アデノウイルス	RSウイルス	マイコプラズマ
2	4	12	4	1	3	1	2	3

(3) 食育活動

栄養士と調理員2人体制の中で給食業務をやってきました。そんな中でアレルギー食、離乳食、配慮食、食育活動と取り組みました。その中で担任と共に食育活動に取り組み活動をしてきました。

(4) 保育方針

- ① 一人ひとりが健康で安全に過ごせるように、日々の健康状態を把握し、必要な配慮ができるようにしていきます。嘱託医による年2回の内科健康診断と歯科健診を実施しました。感染症対策は看護師とクラス担任が連携し年間を通して取り組み、子どもの発達に応じて手洗い、うがいの習慣が身につくよう指導していきました。また日常的に保育士は検温を行っていたのでコロナ対策にもスムーズに対応できました。
- ② 子どもの発達を十分に理解し、指導計画を重視し1年を見通した活動に取り組んできました。日常的に子どもの姿を伝えあい職員間の情報共有をしてきました。
- ③ 行事は実行委員会を中心にしながら職員全員で成功させました。
- ④ 子どもの思いに寄り添いながら、どの子も安心して自分を表現でき、気持ちよく生活できるようにしていきます。また自信をもって仲間とともに育ちあえるようにしました。

(5) 安全管理

- ① 安全管理マニュアルを4月の全職会議にて確認し、安全に対する意識を常に持てるようにしてきました。隔月にてリスクマネジメント委員会を開き、安全・環境整備をヒヤリハットから学び、環境を整え、安全な保育に心がけてきました。



## ②ケガ・事故

病院を受診した事故のケースは9件でした。8件は1日の通院で終わりました。1歳児が午睡後布団の上で足を骨折するという事故が発生しました。完治するまで3か月かかりました。職員はいたのですが、状況がはっきりせず、原因もわからない状況で多賀城市からは「よく親御さん承認してくれましたね」といわれました。保護者が妊婦さんということもあり、園児の自宅に迎えに行くなどしました。保育中は個別に看護師が付くなど、丁寧な対応をしてきました。改めて予測不能の事故もあることが認識させられた案件でした。

- ③ 滋賀県の大津市でおきた散歩中の事故から、散歩コースの見直しなどしてきました。また自治体にも危険個所の要求をしましたが、改善はありませんでした。

毎月の避難訓練では、さまざまな想定（竜巻等も）で計画し、職員一人一人が、自分で判断すること、連携して行動することの両方が訓練できるような内容にしていきました。

子どもの安全を確保するための情報は保護者にお便り、掲示などを通して伝え、共通の認識で取り組めるようにしていきました。（服の安全性、遊具での遊び方等）

### 3. 保護者支援と連携

- ①保護者の生活実態や仕事の状況が理解できるように努め、保護者の子育ての思いに寄り添い一緒により良い子育てができるように支援してきました。

年2回のクラス懇談会や、保育参観、保護者参加の行事を通し保育園を理解してもらい、ともに子どもの育ちを認め合い、よりよい関わりが持てるようにしてきました。

## くさの実保育園

2019年度くさの美保育園の運営を下記のように取り組みました。

子どもの健やかな成長と保護者の就労支援を重点目標として、産休明け、育児休業明けの子どもたちを受け入れてきました。16名程度の入園申し込みがありましたが、年度末3月には13名の在籍となりました。また夜勤勤務、諸会議に対応するため夜間保育、休日、祝日保育を実施してきました。

### 1、利用児童数

#### ① 日中園児数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	1	2	2	3	6	9	9	10	10	11	13	13

#### ② 夜間保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	40	28	34	46	36	37	38	44	59	54	46	48

#### 休日保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	1	5	4	10	7	5	6	5	8	8	3	5

大型連休のところで、当初開園日でなかった4月に臨時保育を開園し3名利用しました。

### 2. 職員配置

・4月正規職員1名、6時間保育士2名（内夜間保育1名）保育補助1名でスタートしました。4月1名の園児とあり、離乳食がすすんでいなかったこともあり、2週間ほど、岩切たんぽぽ保育園に正規職員が9時から13時30分までの応援にでました。5月になり調理員の募集をかけ採用しましたが、一身上の都合により2か月で退職となり再度7月に調理員の採用となりました。また夜間担当の保育士が保育中腰痛になり、労災認定となり、その後退職となりました。園児増に伴い保育士募集をかけましたが応募がなく派遣会社に依頼しました。

11月の監査では体制もとれ指摘事項はありませんでした。その後派遣職員の保育内容に問題があり3か月で退職となりました。また看護師、臨時保育士が退職となりました。保健福祉事務所から「苦情の電話がありました」と抜き打ちの監査があり、延長時間に無資格者が一人で保育をしていることが指摘されました。18時から20時までの延長保育体制に保育士、看護師の2時間パートを雇い運営してきました。

正規職員1名というだけでなく、あと1名正規職員の配置を今後望みます。今年度は1月ごろから園児が増え、看護師0.5人、派遣保育士1名、保育補助1人と採用しました。のべ14人の職員の動きがありました。

### 2. 保育内容

#### ① 日中保育

- ・産休明け園児との愛着関係を作ってきました。また産休あけでの集団保育での配慮やたべる、寝る、遊ぶなどの基本的な生活リズムを整えるように取り組んできました。

## ② 夜間保育

- ・0～小学校3年生、のべ116人の子どもが利用しました。
- ・学校から学童保育そしてくさの美保育園と3カ所利用する子どもがいて、疲労感も考慮しての保育となりました。
- ・年齢さがある中で、また保護者の夜勤にあわせての夕方の登園ということで、子どもたちの状況を見ながら、ケガのないように、事故のないように配慮してきました。

## ③ 休日保育

- ・年度初めに開園日、32日の日程を保護者に知らせました。今年度は32日すべて実施してきました。支援が必要とする家庭があり、坂の看護長、認可保育園と連絡とりあい、情報共有しながら、保育を受け入れてきました。

## 3. 健康

- ・内科、歯科健診は、下馬みどり保育園にあわせて実施してきました。

## 4. 安全衛生環境整備

- ・避難訓練・下馬みどり保育園と共同で実施しました。
- ・採光、換気、冷暖房、湿度の管理を適切に行ってきました。
- ・玩具の消毒、保育室の清掃に配慮してきました。

## 5. 職員研修

- ・経験年数が少ない職員が多いことや、また保育技術、内容については課題が残りました。また職員同士のコミュニケーション不足から行き違いがあり職員の入れ替えが多い年でした。(のべ14人の職員)

- ・職員会議を定例化できず、話し合い、報告などが不十分でした。

## 6. 今後の課題として

- ・この間下馬みどり保育園の管理部が一時的に応援に入るなどの保育体制は作ってきました。正規職員1名のみでパート職員との体制での厳しさがありました。早期にあと1名の正規職員化を望みます。また下馬みどり保育園園長が監査、人事等の書類作成、保健福祉課の窓口になっていますが、多賀城市との関係から実際に任務を担う任務体制が課題です。

## 古川くりの木保育園

2019年度、古川くりの木保育園の保育所経営を次の取り組みで行われました。

### 事業規模

#### (1) 入所児数

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
1歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
2歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
3歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
4歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
5歳	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
合計	82	82	82	82	82	82	82	82	82	82	82	82	984

#### (2) 職員体制

	保育士	栄養士	調理員	看護師	園長	事務・用務	合計
正規職員	14	1			1		16
臨時職員	2						2
パート 6.0H	4		1	1		1	7
パート 5.0H	0		1			1	2
パート 4.0H	2		1				3
パート 3.0H	1		1				2
合計	23	1	4	1	1	2	32

- ・正規保育士1名が一年間育児休業を3月まで取得しました。パート保育士1名が12月末から産休に入りました。

#### (3) 保育事業内容

- ① 基本的運営は、事業計画通り入所児童に基づき運営費と特別事業の補助金・利用料と大崎市独自の補助金（私立保育園運営費補助と障がい児保育補助）の収入で予算通り事業運営が行われました。
- ② 特別保育事業として、乳児保育（12名）障害児保育（1名）、一時保育（1日平均5名）病後児保育（月平均7名）、延長保育事業（標準時間—1時間延長児17名、短時間—延長児2名）、地域子育て交流「遊ぼう会」を行いました。

#### (4) 職員の業務分担と役割

- ①0歳児1クラス、1歳児1クラス、2歳児1クラス、3歳児1クラス、4歳児1クラス、5歳児1クラスの6クラスを担当保育士12名で保育を進めました。障害児保育

担当 1 名、一時保育、病後児担当の職員を配置しました。

- ②一時保育、病後児保育は 4 名の担当職員と管理部・事務が協力して対応しました。
- ③事務は本部の指導の下、経理・総務業務を事務員と管理部が協力して日常業務に支障のないよう努めることができました。
- ④食育については栄養士が中心になり離乳食の進め方（在園児、一時預かり）、クッキング、親子クッキングを保育士とともに取り組みました。
- ⑤保健業務は、看護師が日常の子どもの様子を視診、怪我の応急処置、薬の管理、身長体重測定、健診準備、保健便り、病後児保育など多岐にわたり役割を担い遂行できました。

#### (5) 設備・環境・保育材料について

- ①乳児組（1 歳児）のロッカーの増設、2 階テラスの転倒防止の芝、保育教材などを計画的に購入し、保育内容の充実に努めました。
- ②安全の為細かい補修や園庭の整備、点検、清掃などは用務員を中心に行いました。

### 2. 保育内容について

#### 1) 保育内容

- ①“子どもが主人公”という一人ひとりを尊重する保育をめざし取り組んできました。法人理念・保育目標の上に保育していく事を心がけ研修・職員会議などで実践を学び合いました。
- ②障害児保育は今年度 4 歳児に 1 名の児童が在籍しました。初めて医療的ケア児を預かることになり、看護師、栄養士の協力のもと保育を行いました。保護者とも信頼関係を築きながら、本児の成長を喜び合い情報を共有してきました。また、関係機関（保健師、ほなみ園、相談員）と連携を図りながら支援に努めました。全職員会議では、障害児のねらいや様子を必ず伝え合うようにしみんなで共通理解に努めました。

#### 2) 保護者との関わり

- ①今年も保護者アンケートを前期・後期 2 回行いました。保護者から様々なご意見を頂き、職員みんなで保育をみつめる機会になりました。また、私たちの保育を伝えるきっかけにもなりました。今後もアンケートを通して保護者の思いを理解する一つにしていきたいと思えます。
- ②保護者と日頃からコミュニケーションを計りながら、子どもの様子・成長を喜び合いました。子育ての悩みなども聴くなかで信頼関係づくりを大事にしてきました。子育てに不安を感じている保護者には面談を行うことで、“一緒に考える”ことを大事に不安を解消し、安心できるよう関わってきました。

### 3) 安全管理

- ①園内の危険個所を新年度に職員同士で確認しました。職員が気づいたことは、管理部に伝えてもらうようにし、安全管理に努め子どもたちや保護者が安心して保育園生活を送れるようにしていきたいと思います。
- ②保護者に向けて災害時の対応マニュアル（水害、地震、）のおたよりを初めて発行しました。
- ③災害対策として、毎月の避難訓練と年1回の不審者対策訓練、散歩時における地震訓練、年1回の水害訓練、年2回の総合避難訓を実施しました。
- ④不審者対策として、日中から午睡にかけての時間帯は玄関の施錠を引き続き行っています。保護者にも少しずつ周知されるようになりました。
- ⑤全職員対象に救急救命講習を年1回行いました。

### 4) 職員研修について

- ①引き続き、大事にしてきた“子どもが主人公”をもとに、自分たちの保育を振り返りました。また、法人合同研修で場面記録を出し合い、年齢別に学べたことは大きな力になりました。
- ②前期・後期の総括会議では、職員一人一人が自主的に意欲的に向かえるよう少人数のグループを作り話し合いを行いました。自分の保育を振り返ることの大切さ、保育を全職員で確認し合うことができました。
- ③各研修に参加し、参加した職員には職場会議で報告をしてもらい、全員で学び合うことを大切にしました。全国合研、全国保問研、社会保障の研修などにも参加することが出来ました。
- ④丹野理事長の集団づくりの研修会を開きました。集団作りについて全職員で確認しあえました。

### 5) 小中学校や地域との連携

- ①看護実習生の受け入れをしました。老人介護福祉施設の敬老会では歌や南中ソラランを披露し、世代を超えた交流をはかることができました。
- ②今年度は月1回（5月～11月）遊ぼう会を開催することが出来ました。12月は感染症が流行し中止にしました。園を開放し一緒に遊びを楽しみ、子育ての悩みを聞くなどの場になっています。また、利用者も増え保育園を知るきっかけや一時預かりの利用にも繋がっています。
- ③小学校の連絡会で引き継ぎを行い、児童の様子や配慮しなければいけないことなどお話をしてきました。合わせて保育要録を学校に提出しました。

### 6) 今年度の重点事項

- ①各年齢における集団づくりについて全職員で学習し実践していきます。また、異年齢交流保育についても学習し実践していきます。
- ②場面記録については、乳児部・幼児部の会議に位置づけ引き続き学び合いをしていき

ます。

- ③社会保障の学習を社保委員とともに取り組み、情勢、福祉について学び合う機会を増やしていきます。
- ④病後児保育事業では、小規模保育園・幼稚園・小学校にパンフレットを置かせてもらい、多くの方に利用してもらえる事業になるよう努めていきます。また、今年度より、小規模保育園へ保健のおたよりを発行、相談窓口を行います。小規模保育園とも新たに連携を取りながら進めていきます。
- ⑤大崎市に対して、特別保育事業の一時保育・病後児保育の補助金、大崎市独自の障害児補助金の増額を訴え、働きかけをしていきます。また、大崎地域でも保育士不足が深刻です。保育士不足のため、一時保育を休園・廃止している園が数か所あります。本園の受け入れも限界が来ている為、大崎市と情報交換をしながら保育士確保に向けて補助金等の働きかけをしていきます。

## 7) 保健活動について

### 《2019年度 投薬依頼数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	164	142	202	222	120	166	161	184	122	144	177	121	1925

### 《2019年度 アクシデント件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	14	1	9	14	9	7	10	9	13	17	17	6	126

投薬依頼は、風邪による依頼が大半を占め、一年を通して依頼の件数が多く体調を崩しながら登園している子どもが多くみられます。感染症は、8月初めから9月初めまでの1か月間0歳児クラスで下痢が流行し、菌が検出され保健所が入り検査をしました。大事には至りませんでした。下痢をした場合の取り扱い、便処理の仕方(クラスで下痢が流行した場合は、尿・便とも園処理を指導された)に十分気をつけていきます。また、保護者に対しても回復してからの登園を徹底できるようにしていきたいと思います。

保育中のアクシデントについては、咬傷が大半を占めています。受診をしたケースも4件あり、遊び方、職員の位置、年齢に合った玩具だったかを検証し対策防止に努めました。

アレルギー児に対し誤食も1件ありました。再発防止のための対策をとり二度と起こらないよう全職員で確認しました。

## 8) 給食・食育活動について

栄養士が中心となり離乳食、アレルギー食(2名)など一人ひとりに丁寧に対応してきました。離乳食では食材がなかなか進まず完了食に移行できないケースがありましたが、家庭と食材の確認をしながら進め方・与え方・作り方などを一緒に考えて行ってきました。

また、一時預かりの離乳食、アレルギー食も保護者と相談しながら進めてきました。

行事食は毎月1回のお誕生会と地場産給食、収穫祭、クリスマス会、豆まき会、餅つき会を行いました。

食育活動では、野菜・果物に触れる、野菜の型ぬき、・ホットプレートで育てた野菜を炒める・おにぎり作りなどを行い、子どもの興味・関心が高められるよう取り組みました。

### 3. 補助金による事業

#### ①延長保育事業

##### 《2019年度 利用状況》

申込み利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
18：01時点の平均数	12	11	12	12	9	12	12	11	13	12	13	14	12
18：31時点の平均数	7	7	8	7	6	6	5	5	8	7	6	7	7
16：01時点の平均数	6	10	4	6	1	2	3	5	2	3	3	1	4

職員3名で18時以降の延長保育にあたりました。保護者の就労時間も長く19時過ぎでのお迎えも多くあり、働く保護者の大変さを感じました。

#### ②病後児保育事業

##### 《2019年度 病後児利用状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	4	4	7	4	9	12	11	1	10	0	7	14	83

病後児の利用は年間83名となり、昨年より増加しました（昨年比+23）。くりの木保育園児の利用が45名、他の保育園児35名、小学校3名の利用でした。他の保育園からの利用も微増しています。

#### ③一時保育事業

##### 《2019年度 一時保育利用状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	68	99	100	115	101	100	137	131	109	117	127	138	1342

一時保育の利用者数は、延べ1342名でした（昨年比+61）。主に0～2歳児の未満児の利用者が多くみられました。仕事やリフレッシュ、通院で利用される方々でした。大崎市の一時預かりが休止している為、問い合わせも多くありました。

また、保健師を通じて一時保育を利用される方もおり、保護者の育児のサポートを行ってまいりました。地域の方に寄り添った支援ができるよう努めていきたいと思えます。

#### ④障害児保育

4歳児1名の障害児を保育士の加配を行いながら支援しました。医療的ケアが必要で看護師、栄養士の協力ももらいながら健康・安全を第一に行ないました。

#### ⑤地域交流事業

##### 《2019年度 実施状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
遊ぼう会		9	11		5	12	13	10	0	0	60
世代間交流・夏祭り				500							500

昨年度に比べると17名増。5月から11月にかけて開催しました。12月、1月は感染症



が流行したため、中止しました。遊ぼう会の参加者も年々増加し、友達を誘って来訪してくれる方もいました。親子で楽しめるわらべうたや広い園庭で遊べる外遊びも好評でした。

## 岩切たんぽぽ保育園

2019年度、岩切たんぽぽ保育園の経営について次のように取り組みました。

### 1. 事業規模

#### ①入園状況

職員確保ができず、0、1歳の受け入れ人数を減らしてスタートしました。また、転居による退園や年度途中での移行などもあり人数の変動が多い一年となりました。

毎月1日現在（定員 90名）

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	6	6
1	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
2	12	12	12	19	12	12	11	12	11	11	12	12
3	19	19	19	19	19	12	19	19	19	18	18	18
4	14	14	14	14	14	14	16	16	14	14	14	14
5	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
合計	70	70	70	70	70	70	69	70	69	68	72	72

\*年度途中退園4名、年度途中移行1名

#### ② 職員体制

	園長	保育士	栄養士	調理員	看護師	事務	用務員	合計
正規職員	1	10	1					12
臨時職員		1						1
パート5H		1		2		1		4
パート4H				1	1			2
パート3H		4					2	6
パート2H		1						1
合計	1	17	1	3	1	1	2	26

4月時点では正規職員10名、臨時職員1名でスタートしました。4月末に5時間パート保育士を紹介会社を通して雇用、7月には法人内異動（古川より）で1名の正規職員を確保できました。延長時間帯専任のパート職員を10月末に紹介会社を通して雇用することができ、職員の負担もいくらか軽減することができました。12月より育休職員が復帰したことで人員に余裕ができ、1月中旬から0歳児3名を受け入れることができました。

#### ④ 保育事業内容

保育事業総収入は102,590,000円、そのうち委託費収入92,917,000円でした。補助金・利用料収入は以下の通りでした。

事業名	補助金額	事業名	補助金額
延長保育事業	3,356,000 円	栄養士看護師雇用助成	1,368,000 円
障害児保育事業 (1名)	1,680,000 円	キャリアアップ研修助成	10,000 円
増員保育士助成	3,267,000 円	(幼児教育)	
延長保育利用料	603,600 円	新型コロナウイルス対策 補助金	33,000 円
		合計	10,310,000 円

- 延長保育は2時間延長を実施しました。2時間延長は年間を通して1名、仕事の繁忙期のみ利用(4月1名、5月1名、7月2名、8月1名、10月1名、11月1名、12月3名、2月1名)、12月は保護者からの要望があり夕食の提供を実施しました。年間延長利用延べ数(標準時間)は2,978人、短時間保育認定での延長利用児延べ346人、1日の利用平均は12人でした。2時間延長保育は5年間実施が民営化の条件ですが、2021年度からの利用予定者がいないと見込まれることから、仙台市と協議の上2022年4月1日から1時間延長に変更申請し承認されました。
- 障害児保育対象児童は5歳児クラスで2名、3歳児クラスで1名でした。ただし人員不足で5歳児クラスに障害児担当職員を配置できなかったため障害児保育事業補助金は3歳児1名分のみとなりました。
- 10月からの幼児保育無償化により、それまで公定価格に含まれていた副食費が外され、保育園で月4,500円を実費徴収としました。副食費徴収免除者は非課税世帯など11名でした。
- 3月には新型コロナウイルス感染症対策補助金交付が決まり、消耗品などの申請ができましたが、申請期間が短く十分な検討ができず有効な利用ができませんでした。

## 2. 保育内容

### ①保育方針に沿って

- \* 子どもの発達をとらえた保育：0歳児クラスと1歳児クラスは人員不足のため受け入れを3人、6人とし担任一人を配置しました。そうしたことで、依拠する大人がはっきりし情緒の安定が図られ、どの子も大人への信頼感が育ち生活の見通しを持つことができました。0歳児クラスは1月中旬から3名の新入園児を受け入れ、進級前に慣らし保育ができたのはよかった点でした。1歳児クラスではそれぞれの子どもの様子がよくとらえられ、子どもが自分でできるようになるための手立てを十分とることができたことがよい点でした。2歳児クラスは年間を通じて入退園が多かったのですが活動を通して共感することを大事にしました。

幼児クラスでは生活に意欲的に向かえるよう、係活動やグループ作りなどに取り組み友だちを意識することや生活にメリハリをつけることを大事にしました。行事の取り組みは時間的な余裕を持って取り組み、子どもたちの意見や工夫をひきだすようにして子ども同士の関係が深まってきています。

\* 障害児保育：5歳児クラスに2名、3歳児クラスに1名でしたが3歳児クラスでは職員を配置し、クラス集団の中で、様々な経験ができるよう配慮してきました。特に言語の発達が著しく見られ、意思表示もしっかりとできるなど成長が見られました。保護者面談が2回のみだったので、定期的な保護者面談の必要性を感じました。転居に伴い3月末で転園しました。もう1名の発達に遅れのみられるお子さんについては、園と区の保健師が連携し保護者にも働きかけ、アーチルの発達検査を受けることになりました。日常的な保護者とのつながりを大事にし、率直に話ができる関係づくりが大切だと思いました。5歳児クラスは2名の障害児が在籍し16名のクラスでしたが、人員不足のため職員は配置できず、全体の保育の中で配慮しながら取り組んできました。穏やかさが他児に受け入れられ友達との関係を築き、クラス活動に参加できました。1名は普通学級へ、1名は支援学級に入学しました。

\* 年間行事は以下の通り実施しました。

月	行 事 名
4	入園式 内科検診
5	親子遠足 (3, 4, 5歳児) …台原森林公園
6	歯科検診 交通安全教室 人形劇鑑賞 (劇団 21)
7	夏まつり (園庭) プール遊び
8	プール遊び
9	プール納め
10	運動会 内科検診
11	焼きいも会
12	発表会
1	ほうねん座公演
2	豆まき ごっこ遊び
3	ひな祭り会 卒園式 卒園遠足 (卒園児:加瀬沼公園)

\* 上記の他、誕生会と避難訓練は毎月実施しました。

## ② 保健活動

- \* 年2回の内科検診、歯科検診を1回実施しました。年間を通し看護師を中心として感染症予防に取り組み、保護者にも適宜掲示などで情報提供と予防(朝登園時の手洗いなど)を呼びかけました。その結果感染症が広がることはありませんでした。各クラスの保育士と連携し、清潔な環境づくり、トイレの使い方、手洗い指導、歯磨き指導などに取り組み、保護者対象に毎月の保健便りを発行しました。
- \* 目薬の投薬や、乾燥肌の塗り薬などの継続した長期使用に対応する与薬表を新たに作成し、保護者の負担軽減につながりました。
- \* 2月には新型コロナウイルス感染症の国内発生により、今まで以上に感染症予防の取り組みを徹底しました。子どもには、登園前の検温、登園時の手洗い、保護者には手指の

消毒をお願いし、園内消毒を午前と延長時間帯の1日2回にし、職員のマスク着用などを実施しました。今後も継続した取り組みになります。

\*病欠の主な病名 (風邪などをのぞく)

病名	インフルエンザA	ヒトメタ	溶連菌感染症	嘔吐下痢症	手足口病	アデノウイルス
人数	26	3	19	21	18	5

\*与薬

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
数	60	88	84	94	45	51	88	81	113	68	84	103	960

### ③ 給食室・食育活動

\*栄養士と調理員3人体制で給食業務を行いました。アレルギー食、離乳食、配慮食の対応、食育活動(野菜の皮むき、誕生会クッキング、栄養についてのお話、行事食、大きな魚を捌くなど)年間食育計画に沿って各クラス担任と協力して取り組みました。2歳児からはクラスごとの野菜の栽培活動と連携してクッキング活動を、0,1歳児クラスでは今年度初めての試みとして給食職員が子どもたちの前でリンゴの皮をむいてみせるなどに取り組みました。また、活動内容を写真とともに玄関等に掲示し食育活動の実際が保護者に伝わるようにしました。保育懇談会での試食やおやつ親子クッキング(カップ寿司、白玉団子づくりなど)にも取り組み保護者にも好評でした。リクエストメニューの実施、レシピの配布などで子どもの食への関心が深まりました。

\*給食会議、給食職員会議を通して各クラスの子どもの状況を把握し献立やクッキング活動に反映できるようにしました。今後の課題として会議を定期的実施すること、残食調査を実施していきます。

\*食材費の見直しを行い、冷凍魚も一部使用し青果類も時価を細かく見て発注する、米の銘柄変更など食材料費の削減に努めました。食の安全は保持し今後も定期的に見直す必要があります。

### ④ 安全管理

\*今年度は5月に滋賀県大津市で保育園児散歩中の交差点での交通事故をうけ、散歩のルートを見直しました。実際歩いて危険箇所を共有し安全を確認したうえで保護者に文書を配布、写真入りの地図の掲示などで安全に配慮した取り組みを伝えました。

\*職員一人一人が保育の中での危険を回避する意識が持てるよう、毎月の職員会議で、ヒヤリハット、事故報告を共有し園全体でけがや事故のない保育を目指しましたが室内を走り回ることでの衝突による事故が目立ちました。

<病院受診事故> 7件

内訳 整形外科5件(5歳児右足親指第一関節骨折、5歳児靭帯損傷、3歳児と4歳児打撲による頭部・額部裂傷3)

眼科1(0歳児打撲による瞼の裂創)、歯科1件(5歳児歯の脱臼)

<事故件数> かみつき、引っかき、軽い怪我等を除く

ブランコからの転落 1、誤投薬 1（土曜保育）、投薬忘れ 1、誤食 1（乳糖不耐症児へ牛乳を与えた）

\*避難訓練：早朝、2時間延長時間帯など様々な時間で実施し、地震、火災、竜巻、浸水を想定した訓練及び不審者対応訓練 2 回を行いました。2階建物外部の非常階段を使用した訓練や時間、想定を知らせない訓練も実施し、迅速な避難のための職員の動きを確認できました。そのほか、12月14日に救急救命講習を実施しパート職員を含め職員 13 名が参加しました。

### 3. 保護者支援と連携

\*保護者の状況：生活保護 2 世帯、一人親家庭 10 世帯でした。仕事や子育ての大変さをねぎらいの言葉とともに共感することで信頼を寄せてくれました。DVのある家庭、精神疾患を持つ保護者など特に支援の必要な家庭には担任が中心的に声がけし、時に応じて管理部も話を聞くなど、連携を取りながら保護者支援にあたりました。

\*保護者アンケート：年度末に実施、63 世帯中 22 世帯（35%）の回答でした。保育士との連携では 80%が「子どものことを把握していて安心できる」「話しやすく相談しやすい」と回答があり、保護者からも信頼を得られている結果となりました。個人面談や育児講座の要望がありましたので今後の検討課題です。保育内容については、80%が「満足している」との結果でした。一昨年は 55%の回答、昨年は 40%の回答でしたので年々要望等が少なくなってきました。結果を参考に来年度の保育に生かしていきます。

\*クラス懇談会：年 2 回実施しました。保護者に保育目標やその年齢の発達の大事な点が伝わるように、またグループワークを取り入れ保護者同士の話しあいを通して交流ができる場としました。全クラス園長が参加し子ども家庭環境や保護者の状況をとらえられるように、年長児クラスでは就学に向けての育児講座（丹野理事長のお話）を 1 月の懇談会を利用し実施しました。保護者からは自分の子どもへの対応を振り返る機会になったとの感想が聞かれました。講座の時期なども考慮し継続していくことが必要です。

\*保護者の会役員会：年 3 回開催され、園長が出席し日常の保育や行事について保護者の理解を得られるようにまた連携が図れるようにしました。

\*苦情：年間 4 件ありました。職員の対応に関する苦情 2 件、近隣から保育園行事の音に対する苦情 2 件でした。職員の対応に対するものは途中入園した保護者からで、様々なことに説明不足との訴えがありより丁寧な働きかけが必要であることを職員の中で確認しました。もう 1 件は登園時の子どもの対応への不満でしたが、よく話をきくと子どもの怪我への対応についての不満があったことがわかりました。怪我があったとき、その部分だけでなく全身を見ることが大事であることに気づかされました。近隣の苦情に対しては、相手が名乗らなかったのが特定できていませんが、今後行事の際の配慮も必要です。

### 4. 職員の研修と評価

\*今年度の計画に沿って処遇改善加算Ⅱの要件になっている「幼児保育」を 1 名が受講しま

した。どの職員も1回は外部研修を受講しキャリアアップにつながるようにしました。内部研修やクラス会議については、年間を通し、午睡時の個別対応が必要な子どもが複数いたことから、会議時間の確保が困難で、定期的に参加することがほとんどできなかったことは大きな反省点でした。また、夜の職員会議ができなかったことから、日中の連絡会議を実施し、意思統一が図れるようにしました。年2回の総括会議では各年齢の発達のポイント、保育のポイントを確認することができ職員の学びにつながりました。

\*保問研全国大会へは職員1名を派遣しましたが、全国合研は勤務体制の厳しさがあって、派遣を見合わせました。1月経営懇セミナーには主任保育士を派遣し会計についてと情勢について学びを深めました。

#### 5. 小学校や地域との連携

\*地域の子どもたちの健全な育成を図るため、「岩切子ども子育てネットワーク会議」「虐待防止ネットワーク会議」に参加し、関係機関との連携を深めてきました。6月にはネットワーク主催の「わいわい広場」への参加をしました。毎年参加していた岩切市民センターまつりへ作品展示は台風のため中止となりました。例年実施していた「老壮大学」の方たちと昔遊びの会はインフルエンザの流行により中止としました。

\*地域の未就学児対象にわらべうたの会を2回実施しましたが参加はなく、園庭開放で遊びに来た親子は1組でした。

\*卒園児16名のうち10名が岩切小学校へ入学することから、岩切小学校との連携を大事にし、入学式への参加、幼保小の連絡会での引き継ぎを行いました。また、児童館のほか岩切小以外の6校についても引継ぎを行いました。小学校見学会については、インフルエンザによる学級閉鎖が続いたことにより中止となりました。また、小学校教員との合同研修会への参加など、小学校への接続、連携を深めるための児童要録の送付をしました。

\*岩切中学校2年生2名が3日間体験学習をしました。

\*短大と保育者養成校の保育実習生2名を6月～10月に受け入れました。

\*2月に大学生のボランティア2名を、3月には清掃のボランティア1名を受け入れました。

#### 6. 重点目標について

\*研修、安全管理、行事については上記記載のとおりです。職員が生き生きと働ける職場環境をつくるということでは、年度当初からの職員不足により余裕のない状態になってしまった面があります。その中でも職員一人一人が、それぞれの役割を担い安全で安心できる保育につながりました。社会保障運動については、署名活動に参加するなどできました。今後も学習、行動の両面を大切にしていきます。

## 障がい児者サポートセンター てとて

### 1 各事業の基本方針

#### (1) 【児童部門】

住み慣れた地域で相談から療育までのワンストップでの支援、そして幼児期から少年期までのライフステージで個々の状況に応じた専門性のある支援が多機能に提供できるセンター機能の定着を図ります。

#### (2) 【就労部門】

地域で生活する障がいのある方々が「働くこと」を通して、一般就労や生産活動を行う中から働く事の楽しさを知り、また、生活していく力を養い、社会的自立に向け訓練から雇用までのステップアップを実現する事を目的に支援を図ります。

#### (3) 【相談部門】

身体・知的・精神など障がいのある方や、その家族が抱える様々な悩みや困りごとについて相談を受け、必要な福祉サービス計画を作成しながら、福祉の制度及び地域にある資源の情報を提供します。また、各機関と連絡調整を図りながら、利用者のニーズに応えるよう努めます。

### 2 施設運営の方針

#### 【児童部門】

- (1) 個々の発達状況に合わせた早期かつ専門性をもった支援の実施
- (2) 地域関係機関・専門職及び家族との連携による発達支援の実施
- (3) ライフステージに対応した支援体制の構築
- (4) 相談から療育まで一貫した支援が可能な児童発達支援センター機能の定着化
- (5) 地域に開かれた児童発達支援センター事業の展開

#### 【就労部門】

- (1) 利用者の適性、個性を大切にし、生きがいを持って働くことができるように支援する。
- (2) 地域社会との関わりや保護者及び関係機関・団体との連携を図りながら、利用者の社会的経済的な自立促進を目指す。
- (3) 経営基盤を安定させ、地域に貢献できる組織づくりを目指す。



### 3 児童発達支援事業所の取り組み

#### (1) 児童発達支援センター りんごのほっぺ稼働状況

重点目標・・・◎稼働目標：年間平均 90% ◎療育の質の向上 ◎職員の支援スキル向上

##### ① 定員数：10名 契約者数：10名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働日数	20日	20日	20日	22日	17日	19日
延定員数	200人	200人	200人	220人	170人	190人
延利用者数	179人	176人	188人	192人	153人	174人
稼働率	89.50%	88.00%	94.00%	87.27%	90.00%	91.57%
平均人数	8.9人	8.8人	9.4人	8.7人	9.0人	9.1人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
21日	20日	20日	19日	18日	21日	237日
210人	200人	200人	190人	180人	210人	2,370人
194人	188人	179人	175人	169人	173人	2,140人
92.38%	94.00%	89.50%	92.10%	93.88%	82.38%	90.29%
9.2人	9.4人	8.9人	9.2人	9.3人	8.2人	9.0人

##### ②年間行事

実施月	内 容	実施月	内 容
5月	小遠足①	10月	遠足
6月	保育参観①	12月	保育参観②・クリスマス会
7月	小遠足②	2月	豆まき
9月	前期健康診断	3月	後期健康診断
			修了式・保育参観③

※夏季期間…水遊び 冬季期間…雪遊び

・家族とは常に発達状況の共有を図り、家族の不安軽減を図りながら一体になった発達支援を実施していきます。

##### ③総評

今年度は定員 10 名に対して契約者数 10 名でスタートすることができました。契約者 10 名の内、新規契約者が 3 名、継続が 7 名となっています。

年間稼働率は 90.29%と 90%台で終えることができました。大きく体調を崩して休むお子さんもなく、安定した一年を過ごすことができています。

しかしながら、3月末で正規職員3名とパート職員1名の退職により次年度の体制が非常に厳しい状況にあります。人員の確保と体制整備を重点課題として2020年度の事業を展開していきます。

また、新型コロナウイルス感染予防で全国的に厳しい状況となっています。3月以降、ご家族の判断で自主的にお休みをされている方が3名います。事業所としても館内の消毒及び職員の検温、手洗い・うがいの励行を継続して実施していきます。

(2) 放課後等ディサービス てくてく稼働状況

重点目標：①発達状況に応じた安心・安全な療育支援

：②子どもたちの活動できる環境の整備

：③報酬改正に対応できる体制づくり

① 定員数：20名 契約者数：35名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働日数	21日	20日	21日	22日	18日	20日
延定員数	420人	400人	420人	440人	360人	400人
延利用者数	388人	379人	388人	420人	329人	390人
稼働率	92.38%	94.75%	92.38%	95.45%	91.38%	97.50%
平均人数	18.4人	18.9人	18.4人	19.1人	18.3人	19.5人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
22日	21日	21日	20日	20日	21日	247日
440人	420人	420人	400人	400人	420人	4,940人
405人	375人	381人	343人	357人	251人	4,406人
92.04%	89.28%	90.71%	85.75%	89.25%	59.76%	89.19%
18.4人	17.8人	18.1人	16.3人	17.8人	11.9人	17.8人

②年間行事

・季節毎に年間の行事を定め、季節行事の経験、小集団での社会体験の場としていく。

実施月	内 容	実施月	内 容
4月	お花見	10月	紅葉狩り
5月	社会見学	11月	社会見学
6月	茶話会 遠足	12月	クリスマス会
7月	親子クッキング	1月	雪遊び
8月	電車体験	2月	豆まき
9月	芋煮会 遠足	3月	ひな祭り

※7月～8月学校夏休み ※12月下旬～1月上旬学校冬休み

※3月下旬～4月上旬学校春休み

### ③総評

上半期は稼働率 90%台で推移することができました。要因としては事業所の認知度が高くなったこと、職員が工夫した活動を提供したことによる稼働率の向上となっています。その反面、利用者の成長に伴った活動スペースが厳しくなってきたこと、また稼働率向上のために障がいの重いお子さんの受け入れを行ったことで職員体制が厳しくなっています。これに職員の退職も伴い、体制的にも厳しい状況の中でのサービス提供となりました。新型コロナウイルスによる影響も大きく、契約者の三分の一の保護者の方が自主的にサービスの利用を控えるなど 2～3 月、特に 3 月は稼働率が下がっている状況です。

次年度へ向けた課題として、新型コロナウイルスへの対策、人員の確保及びサービス提供に必要な環境整備を行いつつ、稼働率の回復に職員と力を合わせて尽力していきます。

#### (3) 保育所等訪問支援 てとて

重点目標・・・①児童発達支援との密な連携の構築

②学校関係への事業内容の周知

##### 【取り組み内容】

項目	具体的内容
個別支援計画	障害児の身体、精神の状況及びその置かれている環境に応じ計画書を作成し、実施状況の把握、評価を実施していく。
訪問支援	保育所等の施設を訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援（利用者及び保育士等へ）を実施していく。
家族支援	家族からの医療・福祉・生活等のご相談に応じるとともに、希望に応じて療育技術の指導を実施していく。

#### (4) 相談支援事業所てとて

重点目標・・・①相談支援専門員の増員（1名から2名）

②介護保険と障害福祉サービスの連携（共生型サービス）への対応

③介護保険制度の理解を深める

項目	具体的内容
計画の策定	相談に来所された方のアセスメントを実施し、当事者及び家族のニーズに寄り添った計画書を作成します。
訪問支援	計画策定後の定期的なモニタリングを実施します。
家族支援	家族からのニーズに応じて、医療・福祉・行政等と連絡調整を図ります。

今年度も相談支援専門員 1 名体制で、相談支援事業を実施してきました。1 月末の相談支援専門員の退職に伴い、施設長が 1 月～2 月まで相談支援専門員として配置するこ

とで対応しています。この間、相談支援専門員の募集をかけていましたが応募者はなく、内部異動で4月より相談支援専門員を配置することを決定しました。また、指定特定相談支援事業所（障がい者相談支援事業所）で契約していた20名の方について、他事業所への移行を進めています。令和2年度については、障がい児相談支援事業所のみ運営となり、障がい者相談支援事業所は新規の受け入れは実施しないこととしております。

#### 4 就労支援事業所の取り組み

##### ①【就労移行支援事業】

※平成29年4月より休止中

重点目標…利用者様のニーズ及び報酬改定の動向を考慮しながら、状況に応じて再開することも視野に入れつつ動向を見守る

##### ②【就労継続支援A型事業】

※平成30年12月より休止中

重点目標…令和元年度は、就労継続支援B型を中心に事業活動を進めています。

##### ③【就労継続支援B型事業】

重点目標・・・①4月から6月の間に利用者を3名以上確保する。

②9月以降の平均稼働率を80%まで向上させる。

③農福連携による就労支援事業を展開する。

定員：20名 契約者数：19名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働日数	21日	22日	20日	22日	22日	21日
延定員数	420人	440人	400人	440人	440人	420人
延利用者数	277人	270人	289人	318人	266人	303人
稼働率	65.95%	61.36%	72.25%	72.27%	60.45%	72.14%
平均人数	13.2人	12.3人	14.5人	14.5人	12.1人	14.4人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
22日	21日	20日	19日	20日	22日	252日
440人	420人	400人	380人	400人	440人	4,600人
303人	305人	307人	275人	293人	306人	3,512人
68.86%	72.61%	76.75%	72.36%	73.25%	69.54%	76.34%
13.7人	14.5人	15.3人	14.5人	14.6人	13.9人	13.9人

#### ④就労継続支援B型事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働日数	21日	22日	20日	22日	22日	21日
事業収入	677,184円	829,881円	1,086,591円	893,724円	932,597円	825,964円
工賃支給額	204,650円	205,883円	218,642円	250,350円	199,400円	218,550円

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
22日	21日	20日	19日	20日	22日	252日
761,496円	811,389円	734,250円	763,922円	905,414円	625,386円	9,847,798円
219,050円	229,500円	226,600円	197,500円	210,850円	229,500円	2,610,727円

#### ⑤年間行事

季節毎に年間の行事を定め、社会体験の機会となるよう支援する。

実施月	内 容	実施月	内 容
4月	お花見	12月	クリスマス会
8月	夏祭り	3月	カラオケ大会
10月	芋煮会		

#### ⑥総評

年間の目標としていた利用契約数 20 名という目標に対して 3 月末の契約数は 19 名となり目標が未達となりました。7 月から 11 月にかけて利用者の退所が 3 名あり、12 月以降新規で 3 名の方と契約を結ぶことができました。しかしながら、目標としていた利用者獲得と稼働率の向上には結びつけることができなかったことが反省点です。

次年度の目標は 9 月末までに利用契約者数を 26 名にすることです。この目標を達成するために計画と達成時期を明確にしながらスタッフ一丸となって、この目標をクリアしていきます。

#### 5 地域との交流、地域資源の活用

- (1) 地域行事等の参加を通し、地域に開かれたセンターの定着化を図る。
- (2) 近隣公共施設を有効に活用し、社会体験の機会を持つていく。

#### 6 情報公開、個人情報保護の取扱

- (1) 会報「てとて」の発行・・・年 3 回（6 月、10 月、2 月）
- (2) 個人情報保護規定に基づく個人情報の適正な維持・管理を実施  
イ 利用者及びその家族等の個人情報の保護の徹底

ロ 会報紙等への写真掲載に関する利用者及びその家族の同意

7 苦情及び相談への対応

- (1) 苦情解決責任者、苦情受付担当者の配置
- (2) 受付制度及びその内容について、利用者及びその家族等への周知徹底
- (3) 相談受付後は状況確認や改善等の対策を実施し、相談者へ速やかに対応していく。

8 人材育成及び研修計画

(1) 内部研修

- イ 障害特性等理解のための研修の実施
- ロ 個別支援計画検討会の実施
- ハ 伝達研修の実施
- ニ 法人で開催する採用時研修と継続研修への参加

(2) 外部研修

- イ 各関係機関の開催する研修への参加
- ロ 資格取得のための研修受講（児童発達支援管理責任者等）
- ハ 先駆的に事業を開始している施設への見学研修の実施

9 防災計画

- (1) 避難誘導訓練の実施・・・年3回（7、9、11月）
- (2) 通報訓練の実施・・・年2回（8、12月）
- (3) 防災器具、設備の自主点検の実施

10 職員の健康対策

- (1) 職員の定期検診の実施・・・年1回

## 就労継続支援事業所(B型)工房歩歩

### 1. 施設運営状況

#### 【施設利用者数推移表】

2019年3月31日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	12	12	12	12	12	11	11	11	10	10	10	10
女	1	1	1	2	2	2	2	2	2	3	3	3
合計	13	13	13	14	14	13	13	13	12	13	13	13

#### 【就労支援事業支援費収入推移表】

(単位：千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,672	1,697	1,684	1,842	1,587	1,789	1,894	1,701	1,590	1,631	1,683	1,851	20,626

### 2. 施設運営について

(1) 職員配置状況：管理者兼サービス管理責任者 (1) 職業指導員 (3)

支援員補助 (1) ※2019年10月 1名 配属

(2) 利用者様状況：療育手帳B (8名)、精神保健手帳 (5名)

(3) 収支状況：トータルでは黒字となってきています。利用者の確保が厳しい状況となっており、新規では3名が利用登録されましたが、2名の方が退所となりました。1名の方が体調不良と家庭の問題で退所、もう1名の方は親御さんと本人の意思で他の事業所を面接して受かったことで退所となりました。

#### 【2019年度PC解体・清掃業務売上推移表】

(単位：千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
263	306	375	315	244	275	295	300	259	267	264	291	3,458

#### 【2019年度月別工賃支給額】

(単位：千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
169	164	186	190	156	173	189	176	158	160	167	183	2,076

### 3. 就労支援事業について

(1) 清掃事業は現状維持の状態となっており、作業に従事している利用者さんも同じ方が継続して行っているため作業意欲が若干低下してきています。PC解体作業での作業体験を行って意欲向上を図っていきます。

(2) PC解体事業では業者との繋がりがああるので利用者さんのステップアップの流れを構築していくことが可能となっていますが、清掃事業では現在のところステップアップを行う道筋が構築出来ていないので今後の検討が必要となっています。

(3) PC解体事業では作業単価の低さが課題となっており、青南商事と交渉は行っていますが、世界情勢の影響でなかなか大幅な値上げにはなっていません。単価が上がらない分、作業効率向上を図って収入増を目指しています。

(4) 平成 31 年秋頃に P C 解体事業での施設外就労実施を予定しており、青南商事との打合せを行っています。

#### 4. 平成 30 年度行事について

4 月	交流会 (花見) 個別支援計画面談	利用者 8 名 職員 3 名 利用者 12 名 保護者 8 名
10 月	個別支援計画面談	利用者 12 名 職員 8 名
11 月	交流会 (食事会・ボーリング)	利用者 8 名 職員 3 名

#### 5. 2019 年度総括

4 月スタート時点では利用者様は 13 名で始まり、2019 年 8 月末に入院していた 1 名が退所、11 月末に 1 名が退所となったので 12 月は 12 名となりました。2020 年 1 月に 1 名利用登録となったので利用人数の増加にはなりませんでしたが、利府支援学校からの実習生受け入れ人数が継続して増えてきており、例年は 1 回の実習で 1～2 名程度だったのが 6 名の受け入れとなり、今年度は 10 名受け入れました。3 年生の実習生は少なかったですが、2020 年 4 月から生徒 1 名が利用登録することが決まりました。来年度も実習希望人数が 1 回の実習で 6 名程度となるかもしれないと進路指導担当の先生から連絡が入っていますが、3 月末時点でコロナウイルスの影響で学校の再開が未定となっており、実習も行われるのかまだ判断出来ないとのことでした。

清掃事業では特に変わりはないのだが、清掃作業に従事している利用さんの今後の支援の方向性を検討するとともに、コロナウイルスも流行しているので緊急時の対応についてもリスクマネジメントを考慮していきます。

P C 解体事業では施設外就労先の稼働予定がずれ込んでいます。コロナウイルスの影響もあり、今後の見通しが立たない状況です。事業所内での解体作業は継続の予定です。解体台数については毎月 900 台前後で推移しており、年間 10000 台の台数となっています。

2019 年度は利用者さんの確保を目指してきましたが、利用登録される利用者さんもある反面、退所される利用者さんもあるのでどうしても増加に結び付けることが出来ませんでした。作業については安定して進めることが出来るようになってきているので、利用者さん一人一人の技術や意識の向上を図って円滑に進められるよう図ります。利用者さんの獲得についても、利府支援学校や相談支援事業所からの実習希望者の受け入れを増やしていけるよう関係を密にして取り組んでいきます。

2020 年度はコロナウイルスの影響予測が困難になると思われるので、その時の状況を素早く見定めて悪い方向へならないよう関係機関と連携しながら対応し、事業所の発展を図っていきます。



## 仙台市宮城野児童館

### ・ 2019年度 児童クラブ登録児童数（人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
153	156	156	156	159	156	157	157	160	156	154	154
前年同月比 +12	+14	+14	+15	+16	+17	+18	+19	+25	+25	+27	+27

### ・ 同 児童館利用者数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
乳幼児・児童	2681	2657	2795	3041	2356	2434	2660	2752	2454	2502	2381	1237	29950
中高生・一般	218	132	320	198	148	201	205	245	196	267	279	0	2409
合計	2899	2789	3115	3239	2504	2635	2865	2997	2650	2769	2660	1237	32359
前年同月比	-228	-432	-121	+72	-149	-163	-277	-16	+187	+45	+46	-1518	-2554

### 1 管理運営の基本方針

地域の遊びの拠点となることを目指し、児童館に集う子どもたちが安心して仲良く遊べる諸活動に取り組んだ。

- ・遊びスペースを広げ、のびのびと遊べる場の確保に努めた。
- ・子どもの創造性が生かせる行事、子どもが積極的に関わられる活動に取り組んだ。
- ・地域のお年寄りや成人ボランティア・地域団体と子どもたちの交流を深めた。
- ・要支援児童について保護者や学校との連携を深め、職員で指導の手立てを話し合い、実践した。積極的に研修に参加し、支援を受けた。
- ・非常時対応の研修に取り組み、安全対策を日常的に進めた。
- ・小学校・保育所との情報交換を進め、連携を深めた。
- ・上学年子ども委員会、宮城野保護者会が活動を開始した。
- ・「まるごと児童館Ⅱ」に参加し他館との交流になり、市内の子ども達の健全育成に関わることができた。

## 2 利用者サービス向上

利用者が気軽に安心して利用でき、満足感が得られるよう、利用サービスの向上に努めた。

- ・寄せられた苦情や要望は、一つ一つ丁寧に受けとめ、職員会議での話し合い等を通して、児童館としてのサービス向上に結び付けた。
- ・比較的地域の年齢層が若い、転出入が多い、学校や保育施設が多いといった地域特性を踏まえ、保育教育機関や地域サークルと協力・共同に取り組んだ。
- ・施錠ロッカーでの保管、定めた期日での情報の廃棄を徹底した。
- ・ホームページ・館の掲示板・館のパンフレットを分かりやすくし、情報発信に努めた。
- ・熱中症対策を強化した。  
熱中症計を使った警戒管理、大型扇風機、行事の場所の検討、補水、早めの対応
- ・新型感染症対策に取り組んだ。
- ・児童クラブ保護者・幼児クラブ保護者に年度末アンケートを取り集約。職員会議で検討し、運営懇談会・保護者会で反省事項や改善案を報告した。

## 3 人材確保・育成

児童館の役割について研修を深め、具体的な仕事について見直して改善し、仕事の継承に努めた。

- ・子育てに関する新制度の研修を行い、各人の外部研修も確保した。
- ・事故や怪我への対応については、原因を明らかにするとともに対策を話し合い、職員みんなの問題として今後に生かすようにした。
- ・職員の意向も生かして職務分担を行い、それぞれが自分の分担でリーダーシップが発揮できるようにした。
- ・自分で研修選び自己研鑽ができるように努めた。
- ・職員自身の遊びの幅を広げることを年間の目標にし、遊びの支援者としての力を伸ばすように努めた。
- ・特別支援コーディネーター、放課後児童支援員研修の受講を進めた。
- ・役割分担を明確にし、企画案、文書、事務処理について教え合えるようにした。

## 4 健全育成事業

発達段階に応じて豊かな遊びが体験できるように支援した。「花と絵と音楽のある児童館」という狙いに沿って潤いのある児童館になるように努めた。

### 1、乳幼児と親

- ・グループで誘い合ってカフェタイムやランチを楽しむ親子の姿が見られた。

### 2、小学生期

- ・子どもの要望を生かし、竹馬や一輪車を増やした。盤ゲームやカードゲームについて職員で検討し、新しいゲームを計画的に購入して子ども達に紹介した。

- ・近年、卓球・バドミントン・バスケットの人気が高まり、技術的にも向上してきている。用具をそろえ、ルールや使用時間を決めて、低中高学年それぞれに楽しめるようにした。
- ・ボランティアと職員がリードして、継続することで子どもは技術を高める楽しさを感じている。囲碁は全国大会に参加する子も現れた。
- ・今年度恒常的に教えてくれるボランティアが、囲碁・将棋ともに新たに加わってくれて教室が一層充実してきた。

### 3、中学・高校生期

- ・夕方の1時間を中高生タイムにしてきた。この時間を目当てに遊びに来る中学生グループがいくつかあり、片付けを含め上手に遊戯室を使っている。児童館卒業生中心に小学生と遊んでくれる姿も見られる。
- ・危険なものの持ち込みについてははっきりと注意し、繰り返されないようにした。掲示でも知らせるようにした。貴重品の管理についてルールを設けた。乱暴や傷つける言動を見逃さないようにした。
- ・新たな中学校から平日の職場体験の申し入れがあり、実現した。
- ・大学生・一般のボランティアは館祭りやもちつき会を中心に参加してもらった。大学生や元職員・保護者・地元の方がたが毎年来て、力を貸してくれている。
- ・ボランティアから行事企画があったので相談に乗り、実現に向けて支援した。いう要望には館としてそのお手伝いをし、責任あるボランティア活動ができるよう支援した。

## 5 子育て家庭支援

運営懇談会でも孤立しがちな地域の乳幼児親子に児童館が居場所になれるようとの要望が出されている。次のことに取り組んだ。

- ・幼児親子に気軽に参加してもらうことを目指し、赤かぶづくりや七夕飾り作り等に取り組んだ。夏の水遊びも継続し、小学生が朝から利用しているときにも、幼児親子に来てもらうことができた。
- ・業者や団体と協力して企画した「バター作り」や「犬との交流会」を継続した。
- ・子育て講話やベビーマッサージ・離乳食や生活リズムについての学びあい等が好評だった。サロンの後の講師との談話も貴重な交流の場となった。
- ・二つのお話ボランティア団体が毎回様々な工夫をして歌や手遊びも含め、幼児を楽しませてくれた。今年は図書館のお話会と日程が重ならないようにしたが、今後も参加者を増やす取り組みをしていきたい。
- ・各種行事の後は相談タイムにして、談話から始まって気軽に相談できるようにした。
- ・宮城野マイスクールの子育てサロンの行事に児童館も参加し、協力した。
- ・1歳「ひよこ」、2・3歳「きらきら」という2層の幼児クラブの活動内容にできるだけ違いを作り、続けて参加してもらえるようにした。

- ・食べ物を出すタイミングを工夫した。
- ・特に造形遊び(工作)が幼児親子に喜んでもらった。楽しく作り、クラブの後持ち帰れることが好評だった。
- ・夏の水遊び。
- ・長期休業中も昼は遊戯室を乳幼児タイムにしてお昼も食べられるようにした。
  - ・子育て支援クラブの後継としてのハンドベルサークルを音楽ボランティアとして位置づけ、館の行事で演奏してもらい子育て支援にも役立ってもらった。

## 6 地域交流推進

運営懇談会での意見要望も踏まえ地域連携を深めた。

- ・地域の介護施設訪問は3年目となるはずだったが、事前準備は整ったものの当日荒天のため中止となった。内容は次年度に生かしたい。
- ・東宮城野マイスクール児童館の館祭りに継続して参加し、遊びの交流を重ねた。
- ・1月に代表児童が市立工業高校を訪問し1年間のお礼を伝えるとともに校内を案内してもらい交流を深めた。
- ・原ノ町商店会の七夕祭りに児童館の七夕飾りを作って参加した。
- ・地域の保育所から小学校入学前の体験に利用してもらった。利用説明の後遊ぶ時間を設け、児童館についても知ってもらう機会になった。
- ・館祭りを学校の秋休み1日目となる土曜日にして、地域の祭りとして親しんでもらえるように計画した。(実際は荒天のため中止)
- ・ボランティアをお願いしたい行事を年間の表にして参加を呼び掛けた。

## 7 放課後児童健全育成事業

登録児童が150名を超え、安全・安心な生活の場を保障するための手立てをとり、遊びが豊かに展開されるよう以下の取り組みを行った。

- ・新規利用ですぐには館のルールがわからない1年生が安心して過ごせるような対策に取り組んだ。
  - ①3月の子ども会議で「1年生と仲良くすごすには」という題で話し合い、2年生以上にできることを決めた。
  - ②1年生が保護者とともに児童館の1日や児童館の約束について学べる一枚物の案内プリントを作り読んでもらうようにした。
  - ③1年生の利用開始日に説明会を持ち各部屋の使い方や、先ず守ってほしいことを説明した。
- ・おもちゃの検討。ボードゲームやカードゲームを新規購入した。児童書籍は子どもの希望を生かして選んだ。

- ・ 上学年委員会により、冬にお楽しみ会「バクダンゲーム」が企画実行できた。
- ・ 雨天時外遊びができない代わりに、職員が交代で〈雨天時プログラム〉として室内遊びを企画・実施した。
- ・ 開放委員会との話し合いを経て、夏休みのプール利用が継続された。
- ・ **仙台市工業高校との交流行事**  
春のコンサート、夏のコマドリアニメ、スイカ割り、冬のお礼高校訪問と年間を通じて高校との交流が進んだ。
- ・ **季節の行事**  
かき氷、七夕、大掃除ととん汁の会、餅つき等 季節感のある行事を継続して楽しんだ。
- ・ **音楽的行事・スポーツ行事**  
ハンドベル演奏、ミュージックフェス、綱引き 等
- ・ **子どもが企画する行事**  
上学年企画のお化け屋敷、お楽しみ会 企画準備から最後まで子どもたちが取り組んだ。
- ・ **復興文化行事の人形劇**  
多くの小学生に加え幼児親子の参加もあった。
- ・ いじわるやいじめには保護者や学校を連携を密にし、早期対応に努めた。
- ・ 子どもの意見を取り入れ、職員で検討して、計画的に遊具をそろえた。スポーツ用具・ゲーム・玩具を増やした。
- ・ 上学年子ども委員会が発足し、月一回話し合い、行事をしたり、提案をしたりできる機関ができた。
- ・ 子ども会議が年3回定例開催され、話し合いの仕方も定着してきた。
- ・ 投書「みんなの声」が年間200通を超え、日常的に運営改善に生かされた。
- ・ 宮城野保護者会が発足し、運営懇談会にも出席していただき定期的に御意見が反映できるようになった。

## 8 事故防止・防犯防災

### 1、事故防止、防犯防災

- ・ 5月の職員会議で安全安心マニュアルの説明と共に、これまでの事故事例をいくつか取り上げ、研修を深めた。
- ・ 避難マニュアルの説明と共に毎月の防災訓練を充実させ、順次役割を交代して職員誰でも適切な対応ができるように努めた。

### 2、事故、災害、緊急時への対応

- ・ 来館者へは職員が先に声掛けするようにする等、日常の安全対策に継続して取り組んだ。
- ・ 10月には職員の不審者対策訓練を実施し、不審者役を決め実際にどう対応したらよいかロールプレイングを通して学んだ。その後子どもの不審者避難訓練を行った。

### 3、来館児童・来館者の衛生管理・安全管理の維持管理。・熱中症対策に取り組んだ。

- ・熱中症対策に取り組んだ。
- ・感染症と嘔吐処理について研修を行い、実際に子どもの嘔吐に際し衛生的に処置をした。
- ・特に冬場は職員を玄関に配置し、来館者の手洗い・うがい・手の消毒を徹底した。
- ・新型肺炎対策には推進課や福祉会本部からの注意文書に従って予防措置に取り組んだ。

## 9 施設維持管理

1、常に安全に留意し、不具合な点は迅速に対応する。

- ・警備保障会社（セコム）と業務委託をし、夜間・休館日の施設管理の徹底を図った。
- ・館内を点検し、死角を減らし安全性を一層確保した。不要物を4つで撤去し子どもの動線に物を置かない、指を挟みそうなところをふさぐ等の対策を行った。
- ・点検簿を通して、毎朝の安全点検を徹底し、気づいたところの補修や注意喚起を迅速に行った。
- ・遊び方のルールを随時見直し、表示したり説明したりした。特に事故やヒヤリハットの教訓を生かし対策を講じた。

2、業者と協力して、施設の維持管理に当たる。

館内の清掃は、明光ビルサービスに業務委託し、また年2回の窓掃除（窓ガラス・網戸）と床のワックスがけ清掃を委託してきた。

清掃担当者と連絡を密にし、作業していて気付いた点を教えてもらい、早期の対応に努めた。

3、ごみ減量に努め・エネルギー削減を進める。3、利用者に電気水道の節約、ごみ持ち帰りの呼びかけ利用者には電気水道の節約、ごみ持ち帰りの呼びかけを掲示物で行い、減量の意識化、地球環境への意識づけを行った。

- ・リサイクル箱を置き、紙のリサイクルを徹底した。封筒や裏紙の再利用を増やした。
- ・ごみの計量を続け、ごみへの関心を高めた。
- ・子どものコップ持参を勧め、紙コップを使わなかった分を「エコポイント」として記録し、その分を遊具購入に当てる取り組みをした。